

学年	2	コース等	文系	教科	国語	科目	論理国語 文学国語	単位数	3
使用教科書（発行所名）	高等学校 論理国語（第一学習社）・精選 文学国語（明治書院）								
補助教材等	品詞別 頻出漢字マスター3000（尚文出版） 速読×多読3（啓隆社）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

論理国語

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

文学国語

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

論理国語

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

文学国語

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 小テスト、確認テスト - 提出課題 - 授業への取り組み

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	評論（一）	4	天然知能として生きる	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する
	5	評論（二）	4	自他の「間あい」	
			4	「私」中心の日本語	具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。
	6	1 小説入門	8	山月記（中島 敦）	・表現の特徴が作品に及ぼす効果を考え、人が虎になるという怪異の意味を踏まえて作品の主題を考える。。
	第1回考査				
	7	評論（二）	4	日本人の「自然」	筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。
		論理研究 推論	3	推論とは何か 帰納法のワナー一般化に対する疑問	推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。
2 学 期	9	評論（三）	4	手の変幻	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。
			4	越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者の主張とそれを支える根拠の関係に着目して理解する。
	第2回考査				
	10	評論（四）	4	働かないアリに意義がある	アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。
			4	AI時代の社会と法	AI（人工知能）の発展がもたらす社会と法の関係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。
		評論（五）	4	なぜ多様性が必要か	動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。
	11	4 言葉の力	8	こころ	近代日本文学の代表的な作品を通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。
	第3回考査				
3 学 期	12	評論（五）	4	生体認証技術の発展と未来	生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。
		3 文学の境界を広げる	3	鞠	展開や構造の特徴、寓意や象徴などに着目し、作品を読み味わう。
	1	評論（六）	4	コミュニティ空間としての都市	情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。
	2		4	「第二の身体」としてのメディアと技術	メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との関係について考えを深める。
	第4回考査				
		読み比べ コミュニケーション	4	対話の意味 身体的表現の関係性	対話について述べた本文を粘り強く読み、「おしゃべり」と「対話」の違いを整理しながら、内容の理解を深めようとしている。 コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。
		2 詩歌入門	3	詩の自由を探る	詩というジャンルの歴史性や特徴、また表現上の独特の効果について、具体的な作品分析を通して学ぶ。
		実用文（一）	3	実用文	実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。

学年	2	コース等	理系	教科	国語	科目	論理国語	単位数	2
使用教科書（発行所名）		高等学校 論理国語（第一学習社）							
補助教材等		品詞別 頻出漢字マスター3000（尚文出版） 速読×多読3（啓隆社）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 小テスト、確認テスト - 提出課題 - 授業への取り組み

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	評論（一）	4	天然知能として生きる	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する
	5	評論（二）	4	自他の「間あい」	
			4	「私」中心の日本語	具体例と主張との関係を整理して論理構成を把握し、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。
	第1回考査				
	7	評論（二）	4	日本人の「自然」	筆者の述べる西洋と日本の「自然」を対比的につかみ、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。
		論理研究 推論	3	推論とは何か 帰納法のワナー一般化に対する疑問	推論の種類の違いを把握し、それぞれの事例について積極的に考え、その妥当性を検討しようとしている。
2 学 期	9	評論（三）	4	手の変幻	内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握する。
			4	越境する動物がもたらす贈り物	物語に描かれた人間と動物との関わりについて、筆者の主張とそれを支える根拠の關係に着目して理解する。
	第2回考査				
	10	評論（四）	4	働かないアリに意義がある	アリの生態の紹介から人間社会の問題点へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を理解する。
			4	AI時代の社会と法	AI（人工知能）の発展がもたらす社会と法の關係の変化を把握し、今日的な問題意識を持つ。
		評論（五）	4	なぜ多様性が必要か	動的平衡という視点から生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。
	第3回考査				
	12	評論（五）	4	生体認証技術の発展と未来	生体認証技術の持つ課題を文脈から把握し、それが現代社会に投げかける意味について考えを深める。
	1	評論（六）	4	コミュニティ空間としての都市	情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握し、将来の社会のあり方を構想する広い視野を培う。
	2		4	「第二の身体」としてのメディアと技術	メディアを「第二の身体」と捉える論理を把握し、自己と技術や道具との關係について考えを深める。
3 学 期	第4回考査				
		読み比べ コミュニケーション	4	対話の意味 身体的表現の關係性	対話について述べた本文を粘り強く読み、「おしゃべり」と「対話」の違いを整理しながら、内容の理解を深めようとしている。 コミュニケーションをテーマとした文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。
	3	実用文（一）	3	実用文	実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。

学年	2年	コース等	全	教科	国語	科目	古典探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		「精選古典探究 古文編・漢文編」（東京書籍）							
補助教材等		体系古典文法（数研出版） 漢文必携（桐原書店） さくらさく古文単語（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 定期考査 - 小テスト、確認テスト - 提出課題	- 小テスト、確認テスト - 提出課題 - 授業への取り組み

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時	学習内容	評価規準
1 学期	4	説話 1	3	宇治拾遺物語 小野篁、広才のこと	敬語の用法、本文中の助動詞の意味や助詞の用法などの文法事項を踏まえて、内容を理解することができる。
		歴史物語 1	5	大鏡（一）花山天皇の出家	
	5	歌物語	2	伊勢物語 初冠	和歌の修辞を含めた表現技法、本文中の助動詞の意味や助詞の用法などの文法事項を理解し、内容を把握できる。
			3	伊勢物語 小野の雪	
	6	史記 1	8	項羽 鴻門之会	語句や句法の意味・用法を踏まえて、内容を理解し、登場人物のはたらきについて説明できる。
	第1回考査				
7	史記 1 日記 1	6 4	項羽 四面楚歌・項王自刎 更級日記	語句や句法の意味・用法を踏まえて、内容を理解することができる。	
				文法的事項を踏まえて、内容を理解し、作者の物語に向けられた思いを読み取ることができる。	
2 学期	9	作り物語 1	6	源氏物語（一） 光源氏の誕生	本文中の敬語や助動詞の意味や用法などの文法事項を踏まえて、物語全体の主人公である光源氏がどのような状況の中で誕生したのか読み取ることができる。
	第2回考査				
	10	作り物語 1 随筆 1	8 6	源氏物語（一） 若紫 枕草子	文法的事項を踏まえて、光源氏が若紫を見いだした経緯と、光源氏の若紫に対する心情の変化を読み取ることができる。
					文法的事項を踏まえて、内容を理解し、作者と定子の関係を読み取ることができる。
	11	思想 1・2	6	儒家・道家の思想	語句や句法の意味・用法を踏まえて、儒家と道家の思想を理解することができる。
	第3回考査				
12	日記 1	5	蜻蛉日記	文法的事項を踏まえ、歌や「移ろひたる菊」に込められた作者の心情を読み取ることができる。	
3 学期	1	歴史物語 2	8	大鏡（二）	文法事項を踏まえて、歴史物語を背景に注意しながら読み、作品について理解することができる。
		小説 1	4	小説	語句や句法の意味・用法を踏まえて、内容を把握し、漢文における「小説」というジャンルについて理解できる。
	2	第4回考査			
	3	詩歌	8	歌合・歌論	文法事項を踏まえて、内容を理解できる。
		詩 1	4	近体詩・日本の漢詩	漢詩の形式・用法を踏まえて、内容を理解することができる。
		文 1	4	文	語句や句法の意味・用法を踏まえて、内容を理解することができる。

学年	2	コース等	全クラス	教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2
使用教科書（発行所名）	高等学校 新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)								
補助教材等	新詳地理資料COMPLETE（帝国書院）、2026年版地理統計PLUS-WebGIS付き-（帝国書院）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・地理に関わる諸事象に関し、世界の生活文化の多様性や、地球的課題への取組を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を効果的にまとめる技能を身に付ける。・地理に関わる事象の意味、特色や関連を、位置や分布、人間や空間との相互関係などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を養う。・地理に関わる諸事象について、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、日本国民としての自覚、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理的な見方考え方を働かせて、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする。・分布のパターンからどのような一般の共通性の下、場所の特徴からどのような地域的特殊性を持ち、人々の生活と自然環境がどのように関わり、他地域とどのように結び付き、それらがどのように変容しながら、現在の地域が形成されたかを考察する。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。・多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 課題	- 定期考査 - 課題	- 授業に取り組む姿勢 - 課題への取り組み状況 - 授業プリントへの記入の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	1部 地図と地理情報システム 1章 地球上の位置と時差	4	1 地球上の位置と私たちの生活 2 時差と私たちの生活	・緯度や経度の基本的な仕組みについて理解している。・緯度や時差の違いが生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。・緯度や時差の違いが生活に与える影響について、課題を主体的に追究、解決しようとしている。
	5	2節 地図の役割と種類 2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	5	1 地球儀と地図 2 身の回りの地図 3 統計地図の種類と利用 4 地理情報システム（GIS）の活用	・様々な地図の読取などをもとに、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。・世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身につけている。・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察している。・目的に応じた地図や地理情報システムの利活用の方法について、主体的に追究している。
	6	2節 グローバル化する世界	4	1 国家間の結びつき 2 貿易によって結びつく世界 3 さまざまな交通網 4 世界を結ぶ通信網の発達	・国境の種類、国家の領域について理解している。世界の貿易、縮小する時間距離について理解している。・国境によって定められた領域に着目しながら、世界や日本がどのように国家の領域を定めているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。・先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながら、世界の貿易の特徴について、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。・地域差に着目しながら、交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。・地図から読み取れる交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化について、主体的に追究している。
	7	3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波と防災 3節 火山災害と防災 4節 気象災害への取り組み	5	1 日本の地形 2 日本の気候 1 地震・津波による災害 2 地震・津波の被災地の取り組み 1 火山の恵みと災害 2 火山と共生する地域の取り組み 1 さまざまな気象災害 2 気象災害への取り組み 1 減災への取り組み 2 被災地への支援	・日本列島の地形、気候の特徴について理解している。・地震の種類と震災の被害、火山の恵みと火山災害、気象災害の種類について理解している。・日本の地形の成り立ち、気候の違いについて多面的・多角的に考察し、表現している。・地震や津波、火山噴火、気象災害の発生の仕組みや被害の特徴、対策について多面的・多角的に考察し、表現している。・身近な地域で発生する可能性がある地震や津波、火山噴火、気象災害などに対する対策について課題を見出し、主体的に追究・解決しようとしている。
2 学期	9	2部 国際理解と国際協力 1節 世界の地形と人々の生活	6	1 大地形と人々の生活 2 変動帯と人々の生活 3 安定地域と人々の生活 4 河川がつくる地形と人々の生活 5 海岸の地形と人々の生活 6 氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	・それぞれの地形の分布や地形の形成について理解している。・それぞれの地形の分布や特徴、人々の生活に与える影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。・それぞれの地形の分布や特徴、人々の生活に与える影響について、主体的に追究しようとしている。
	10	2節 世界の地形と人々の生活	7	1 気温・降水と人々の生活 2 大気循環と人々の生活 3 世界の植生と気候区分 4 熱帯の生活 5 乾燥帯の生活 6 温帯の生活 7 亜寒帯・寒帯の生活	・気温、降水量、風の違いとその仕組みについて理解している。・植生に着目したケッペンの気候区分と気候・植生と生活の関わりについて理解している。・雨温図、ハイスグラフを適切に読み取ることができる。世界各地の気候の違いや分布、植生と人々の生活との関わりについて多面的・多角的に考察し、表現している。・世界各地の気候が、植生や人々の生活に与える影響について主体的に追究しようとしている。
	11	2節 世界の気候と人々の生活	5	生活と気候の関わり	・世界の気候の広がりや気候と人々の生活が深く関わり合っていることについて理解している。・衣食住に着目しながら、気候と人々の生活がどのように関わりあっているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。
	12	5節 世界の産業と人々の生活	5	1 人々の生活を支える農業の発展 世界各地の農業	・農業区分の分布や特徴について、気候・植生、地形を関連づけて理解している。・農業の生産性と集約度、農業の発展について理解している。・農業区分の分布や特徴について、気候・植生、地形を関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。農業の課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。・農業区分の分布と人々の生活の関わり、農業の課題について主体的に追究・解決しようとしている。

3 学 期	1	2章 地球的課題と国際協力 3節 資源・エネルギー問題	3	1 世界のエネルギー・鉱山資源 2 エネルギー利用の現状と課題 3 地域で異なるエネルギー問題への取り組み	・エネルギーの種類と資源利用の変化、国によって異なる電力構成について理解している。・鉱山資源の分布、エネルギー問題への取り組みについて理解している。・鉱山資源の分布と各国の電力構成、資源利用の変化について、関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。・エネルギー利用の課題と取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。・エネルギー問題の課題や取り組みについて、主体的に追究・解決しようとしている。
		5節 世界の産業と人々の生活	3	2 人々の生活を支える工業の発展	・工業の種類や工業立地の条件について理解している。・日本や世界の主要な工業地域の特徴について理解している。・工業の発展や課題について理解している。・工業地域の変遷、形成要因について、多面的・多角的に考察し、表現している。・工業の発展や課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。・工業の形成要因や変遷、課題について、主体的に追究しようとしている。
	3	2章 地球的課題と国際協力 1節 複雑に絡み合う地球的課題 2節 地球環境問題	5	1 相互に関連する地球的課題とその解決に向けて 2 多様な地球環境問題 3 地球温暖化への対策	・地球環境問題の種類とその背景について理解している。・地球環境問題が人々の生活に与える影響や地球環境問題に対する取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。・地球環境問題の課題について主体的に追究・解決しようとしている。

学年	2	コース等	文Ⅰ	教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		詳説日本史（山川出版社）							
補助教材等		新詳 日本史（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を身に付ける。またその過程において我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	提出物	提出物	提出物
	授業態度	授業態度	授業態度
	考査	考査	

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	・ 日本文化のあけぼの ・ 律令国家の形成	6	・ 原始・古代における日本の成り立ちについて考古学・史学双方の観点から理解させる。 ・ 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。またその背景となる国際情勢について理解させる。	・ 旧石器時代から縄文時代への変容の内容と原因について理解し、表現できる。 ・ 律令国家形成の過程と、その背景となった国際情勢について理解し、表現できる。
	5	・ 律令国家の形成	7	・ 原始・古代における日本の成り立ちについて考古学・史学双方の観点から理解させる。 ・ 律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。またその背景となる国際情勢について理解させる。	・ 律令国家形成期である天武・持統朝と完成期である奈良時代の政治過程について理解し、表現できる。 ・ 7世紀から8世紀の国内文化の特徴と、文化に影響を与えた国際交流について理解し、表現できる。
	6	・ 貴族政治と国風文化	8	・ 平安前期を中心とした律令国家の政治改革と古代の官僚制の変遷について理解させる。 ・ 藤原氏による摂関政治の成立過程と王朝国家の形成について考察する。	・ 平安前期を中心とした律令国家の政治改革と古代の官僚制の変遷について理解し、表現できる。 ・ 藤原氏による摂関政治の成立過程と王朝国家の形成について考察し、表現できる。
	7	・ 貴族政治と国風文化	9	・ 律令制に基づく地方政治の乱れが公領支配・荘園経営に影響を与え、新興勢力としての武士が形成されたことを理解する。 ・ 9世紀から11世紀の文化の特徴と国風化について、末法思想などの背景も含めて理解させる。	・ 武士団の形成の背景について理解している。 ・ 古代の文化の特徴について政治的な背景も含め理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
2 学期	9	中世社会の成立	9	・ 院政期前後の土地支配形態を踏まえて院政期の政治、社会、文化について理解する。 ・ 平氏政権の台頭について、政治・文化・経済の面から考察する。	・ 院政期の政治、社会、文化について理解している。 ・ 平氏政権における政治、社会、文化について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	10	中世社会の成立	9	・ 武士政権の成立について、御恩と奉公の封建的主従関係を軸に考察する。 ・ 承久の乱に伴う公武関係の変化に着目し、鎌倉幕府の支配領域の拡大や、執権政治への転換について理解させる。	・ 御恩と奉公に見られる封建的主従関係について理解している。 ・ 承久の乱の歴史的影響について理解している。 ・ 執権政治について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	11	中世社会の成立	9	・ 蒙古襲来による御家人の困窮や、経済への影響、非御家人を組み込んだことによる幕府のあり方の変化について考察する。 ・ 得宗専制時代の政治・経済について、輪力御家人の粛清や経済政策などを軸に理解させる。	・ 蒙古襲来の与えた政治的・社会的影響について理解している。 ・ 得宗専制政治の特徴について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	12	武家社会の成長	7	・ 室町幕府の支配体制の確立と、勘合貿易により冊封体制に組み込まれたことが与えた国内外の影響について理解する。 ・ 惣村の発達による社会への影響と、事件・一揆の勃発による室町幕府の衰退について理解させる。	・ 鎌倉幕府の衰退の原因について考察できる。 ・ 鎌倉幕府の滅亡とけつむ政権の特徴と課題について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
3 学期	1	武家社会の成長	6	・ 中世の文化について、国際的な影響も含め理解させる。 ・ 一揆や地方都市の発達により、新興勢力としての戦国大名が台頭したことを理解する。	・ 室町幕府の政治体制について理解している。 ・ 勘合貿易の内容について理解している。 ・ 惣村と一揆について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	2	近世の幕開け	7	・ 大航海時代と呼ばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人のアジア地域への進出とその影響について理解させる。 ・ 織田信長・豊臣秀吉の統一事業の過程について理解し、その後の幕藩体制に与えた影響について考察する。	・ 大航海時代における日本について理解している。 ・ 織豊政権の統一過程と政治的な特徴について理解している。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	3	近世の幕開け	7	・ 江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・ 江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方を含めて、その影響と歴史的意義について考察する。	・ 幕藩体制確立の過程を理解している。 ・ 鎖国の内容と歴史的意義について考察できる。 ・ 政治的な事象の原因と結果について説明できる。

学年	2	コース等	文Ⅱ	教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2
使用教科書（発行所名）		詳説日本史（山川出版社）							
補助教材等		新詳 日本史（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

我が国の歴史の展開について総合的な理解を深め、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、地域や日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を身に付ける。またその過程において我が国の歴史について、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付けるとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	提出物	提出物	提出物
	授業態度	授業態度	授業態度
	考査	考査	

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定時間	学習内容	評価規準
1学期	4	・日本文化のあけぼの ・律令国家の形成	5	・原始・古代における日本の成り立ちについて考古学・史学双方の観点から理解させる。 ・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。またその背景となる国際情勢について理解させる。	・旧石器時代から縄文時代への変容の内容と原因について理解し、表現できる。 ・律令国家形成の過程と、その背景となった国際情勢について理解し、表現できる。
	5	・律令国家の形成	6	・原始・古代における日本の成り立ちについて考古学・史学双方の観点から理解させる。 ・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。またその背景となる国際情勢について理解させる。	・律令国家形成期である天武・持統朝と完成期である奈良時代の政治過程について理解し、表現できる。 ・7世紀から8世紀の国内文化の特徴と、文化に影響を与えた国際交流について理解し、表現できる。
	6	・貴族政治と国風文化	6	・平安前期を中心とした律令国家の政治改革と古代の官僚制の変遷について理解させる。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と王朝国家の形成について考察する。	・平安前期を中心とした律令国家の政治改革と古代の官僚制の変遷について理解し、表現できる。 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と王朝国家の形成について考察し、表現できる。
	7	・貴族政治と国風文化	7	・律令制に基づく地方政治の乱れが公領支配・荘園経営に影響を与え、新興勢力としての武士が形成されたことを理解する。 ・9世紀から11世紀の文化の特徴と国風化について、 未法思想などの背景も含めて理解させる。	・武士団の形成の背景について理解している。 ・古代の文化の特徴について政治的な背景も含め理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
2学期	9	中世社会の成立	7	・院政期前後の土地支配形態を踏まえて院政期の政治、社会、文化について理解する。 ・平氏政権の台頭について、政治・文化・経済の面から考察する。	・院政期の政治、社会、文化について理解している。 ・平氏政権における政治、社会、文化について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	10	中世社会の成立	7	・武士政権の成立について、御恩と奉公の封建的主従関係を軸に考察する。 ・承久の乱に伴う公武関係の変化に着目し、鎌倉幕府の支配領域の拡大や、執権政治への転換について理解させる。	・御恩と奉公に見られる封建的主従関係について理解している。 ・承久の乱の歴史的影響について理解している。 ・執権政治について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	11	中世社会の成立	7	・蒙古襲来による御家人の困窮や、経済への影響、非御家人を組み込んだことによる幕府のあり方の変化について考察する。 ・得宗専制時代の政治・経済について、輪力御家人の粛清や経済政策などを軸に理解させる。	・蒙古襲来の与えた政治的・社会的影響について理解している。 ・得宗専制政治の特徴について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	12	武家社会の成長	5	・室町幕府の支配体制の確立と、勘合貿易により冊封体制に組み込まれたことが与えた国内外の影響について理解する。 ・惣村の発達による社会への影響と、事件・一揆の勃発による室町幕府の衰退について理解させる。	・鎌倉幕府の衰退の原因について考察できる。 ・鎌倉幕府の滅亡とけっむ政権の特徴と課題について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
3学期	1	武家社会の成長	4	・中世の文化について、国際的な影響も含め理解させる。 ・一揆や地方都市の発達により、新興勢力としての戦国大名が台頭したことを理解する。	・室町幕府の政治体制について理解している。 ・勘合貿易の内容について理解している。 ・惣村と一揆について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	2	近世の幕開け	5	・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人のアジア地域への進出とその影響について理解させる。 ・織田信長・豊臣秀吉の統一事業の過程について理解し、その後の幕藩体制に与えた影響について考察する。	・大航海時代における日本について理解している。 ・織豊政権の統一過程と政治的な特徴について理解している。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。
	3	近世の幕開け	5	・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めて、その影響と歴史的意義について考察する。	・幕藩体制確立の過程を理解している。 ・鎖国の内容と歴史的意義について考察できる。 ・政治的な事象の原因と結果について説明できる。

学年	2	コース等	文系	教科	地歴公民	科目	世界史探究	単位数	3
使用教科書（発行所名）		詳説世界史（山川出版社）							
補助教材等		アカデミア世界史（浜島書店） ゼミナル世界史（浜島書店）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

近現代を通じて世界は、地域間の接触・交流の密度の高まりを受けて諸地域が多様なネットワークで結ばれ、それぞれの地域の内部構造も変容していくという一体化の過程を歩んできた。しかし一方で、世界は多元化・差異化・多様化の様相を拡大させ、国家間の武力紛争や内戦も後を絶たない。なぜ、こうした錯綜した状況が起こるのかを、近現代史の考察だけでなく、近現代以前の地域や国のそれぞれの成り立ちや文化的枠組みの形成、地域間の交流のありかたにさかのぼって考察する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
歴史の展開を考察する上で必須となる基本的な地名・人名等を、教科書、諸資料から適切かつ効果的に取り入れて理解し、それぞれの時代の基本的な視点や重要な主題テーマの考察に活用することができる。	歴史的概念を多面的・多角的に考察し柔軟に理解するとともに、判断にも偏りがない。錯綜した状況についても、原因の所在、結果の分析を基に理解し、自らの言葉で適切に表現することができる。	教科書が掲げる主題テーマ以外にも、自らの疑問を基に独自の主題を設定することができ、そこを基点に歴史への理解をさらに深めようとする意欲的な態度が認められる。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ 考査 ・ 小テスト ・ 課題プリント	・ 考査 ・ 小テスト ・ 課題プリント	・ 課題プリント ・ ノート提出 ・ 授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第1章 文明の成立と古代文明の 特質 ・オリエント ・中国 ・インド ・南北アメリカ	7	①古代文明の歴史的特質を多面的・多角的に考察し表現する。 ②古代文明成立の背景にある地理・気候・風土等の諸条件について理解する。 ③古代文明の性格の違い、それらが今日に残した文化的遺産を理解する。	・都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 ・諸地域の古代文明を比較して考察し、異同や特徴を理解して表現することができる。 ・遺産を単に「遺産」として受け止めるのではなく、そこから生業、日常生活を想像し、今日の生活を省みることができる。
	5	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 ・秦・漢帝国 ・中国の動乱と変容 ・東アジア文化圏の形成	6	①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。 ②「皇帝」の特質を、「王」との比較において理解する。 ③遊牧民族の動きと魏晋南北朝の動乱の関係について理解する。 ④唐の勢力圏の広がり、その制度・文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。	・定住民族と遊牧民族の歴史的な関わりについて、地理や風土との関係の中で柔軟に考察することができる。 ・皇帝の地位がいかなる意味を持つか、またその出現が中国及び東アジア世界に与えた影響について理解できる。 ・唐の勢力、その文化が近隣諸地域に与えた影響について、日本を含めて理解できる。
	6	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	6	①インドの王朝の変遷を、諸宗教の特質、周辺諸地域との関係から多面的・多角的に考察し表現する。 ②「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東南アジアの風土、国家形成の特質をインド、中国、アジア諸地域との関係において理解する。	・アーリヤ人進出以後の歴史の変遷とその中でバラモン教、仏教、ヒンドゥー教等の成立の諸事情と特徴を柔軟に理解することができる。 ・古代交易ルートにおけるインドの位置づけを理解できる。 ・東南アジアの風土、国家形成の特質をインド史や中国史との関わりの中で理解できる。
	7	第4章 西アジアと地中海周辺の 国家形成 ・イラン文明 ・ギリシア人の都市国家 ・ローマと地中海支配 ・キリスト教の成立と発展	7	①アケメネス朝、パルティア、ササン朝の成立と繁栄の要因について理解する。 ②ボリスの特質について、オリエントの諸都市との比較において理解する。 ③ローマ共和政の特質、帝国への変容をギリシアとの比較において理解する。 ④キリスト教成立の経緯について理解する。	・ササン朝の成立までの西アジアの歴史を古代オリエント史との関わりの中で理解できる。 ・政治共同体としてのボリスをローマの変遷との関連の中で考察し、その異同について理解できる。 ・キリスト教の成立の経緯、原始キリスト教の特徴についてユダヤ教との比較の中で理解できる。
2 学 期	9	第5章 イスラーム世界の成立と ヨーロッパ世界の形成 ・イスラーム政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成	10	①ムスリムによる大征服の展開、王朝の成立、文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ②イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ゲルマン人の移動から西ヨーロッパ世界の成立、キリスト教会との関係、封建社会の特質について理解する。	・イスラームがどのようにして短期間のうちに勢力を拡大していったか、その背景・要因について理解している。 ・西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのように独自の文化を形成していったかについて理解している。
	10	第6章 イスラーム教の伝播と西 アジアの動向 ・イスラーム教の諸地域 への伝播 ・西アジアの動向	6	①中央アジア、南アジア、東南アジア、アフリカのイスラーム化の背景と要因について理解する。 ②トルコ人の西アジア進出が及ぼした影響、十字軍の展開、モンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について理解する。	・中央アジア、南アジア、東南アジア、アフリカでどのようにしてイスラーム化が進んでいったかを理解している。 ・アッバース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてムスリムの連帯が維持されたことを理解している。
	11	第7章 ヨーロッパ世界の変容と 展開と変容 ・封建社会の展開 ・東ヨーロッパ世界の展開 ・中世文化	6	①封建社会とローマ＝カトリック教会との関係、教皇権、帝権と王権の関係、封建社会が崩壊に向かう経緯について理解する。 ②英仏百年戦争等、諸国の成立の事情、その関係について理解する。 ③ビザンツ帝国衰退の要因、東西ヨーロッパ文化の特徴について理解する。	・中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について理解している。 ・ビザンツ帝国衰退の要因とスラブ民族・非スラブ民族の活動について理解している。 ・封建社会の衰退と教皇権の衰微、中央集権化に向けた各国の動きについて理解している。 ・東西ヨーロッパ文化の特徴について理解している。
	12	第8章 東アジア世界の展開とモン ゴル帝国 ・アジア諸地域の自立化と 宋 ・モンゴルの大帝国	5	①10世紀前半の東アジアの政権交替の背景や成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係、社会や経済、文化の特徴を多面的・多角的に理解し表現する。 ③モンゴル帝国成立の背景、成立が東アジアに及ぼした影響、東西交流、解体の要因と帝国の継承者について理解する。	・10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。 ・モンゴル帝国の成立と解体、帝国の支配が社会にどのような影響を与えたかについて理解している。
3 学 期	1	第9章 大交易・大交流の時代 ・アジア交易世界の興隆 ・ヨーロッパの海洋進出 とアメリカ大陸の変容	4	①モンゴル帝国の解体が及ぼした影響、明朝の成立、冊封（朝貢）体制の成立と世界商業の進展がそれに与えた影響等について多面的・多角的に理解する。 ②ヨーロッパ人の海洋進出がアジア、アメリカに与えた影響、一体化する16世紀以降の世界の様相について多角的・多面的に理解する。	・「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。 ・ヨーロッパの海洋進出について、動機・背景・経緯について理解している。
	2	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 ・オスマン帝国とサファ ヴィー朝 ・ムガル帝国の興隆 ・清と隣接諸地域	6	①オスマン帝国の勢力拡大、サファヴィー朝がイラン社会に与えた影響について多角的・多面的に理解する。 ②ムガル帝国の成立、イスラームとヒンドゥー教の関係、文化の融合等について理解する。 ③清朝に支配された民族、清代における周辺諸地域と中国との関係、清代の社会や文化について理解する。	・オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。 ・ムガル帝国において非イスラームへの支配がどのように変化していったかを理解している。 ・清朝の基礎が築かれた経緯、政治・社会構造、近隣諸地域との関係について理解している。
	3	第11章 近世ヨーロッパ世界の動 向 ・ルネサンス ・宗教改革 ・主権国家体制の成立 ・蘭・英・仏の台頭 ・北欧・東欧の動向 ・科学革命と啓蒙思想	3	①ルネサンス、宗教改革がヨーロッパの主権国家体制の成立に与えた影響について多角的・多面的に理解する。 ②ヨーロッパ諸国の動向にふれながら、北欧・東欧を含めて主権国家体制の成立について多面的・多角的に理解する。 ③科学革命の背景およびその成果がヨーロッパに与えた影響について理解する。	・ルネサンス・宗教改革がヨーロッパの主権国家体制の成立に与えた影響、それを受けて成立した諸国家の特徴および動向について多角的・多面的に理解している。 ・科学革命とよばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。

学年	2	コース等	文系	教科	公民科	科目	政治・経済	単位数	2
使用教科書（発行所名）		高等学校 政治・経済（第一学習社）							
補助教材等		最新政治・経済資料集2026							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

社会の在り方についての見方・考え方はたらかせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会のあり方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考えや概念・理論を活用して、現実社会の複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠にあるべき社会について構想することができる。	現実社会の諸課題について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に帰結しようとする態度や、よりよい社会の実現のために、多面的。多角的に考察、構想したことを社会生活に活かそうとする態度を持つ。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 授業で使用するプリント - 提出物 - 考査	- 授業で使用するプリント - 提出物 - 考査	- 授業参加態度 - 授業で使用するプリント

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	第1編【政治分野】 現代日本の政治・経済 ・政治と法の意義と機能 ・法の支配と立憲主義 ・日本の人権の保障と日本国憲法 ・現代社会における新しい人権	7	・政治、政治権力の意味と役割について理解する。 ・法の意義と機能について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・基本的人権が確立した背景・経緯、憲法によって保障されている自由や権利について多面的・多角的に考察する。 ・新しい人権が主張されるようになった背景やその具体的な内容について考察する。 ・人類は人権獲得に向けてどのように努力してきたか理解する。	・政治、政治権力の意味と役割について考察し、なぜ社会契約説が民主政治の「原型」であるのかについて表現することができる。 ・社会規範としての法の性格（道徳との違い）、法の分類、法の機能（権利と義務、秩序維持、紛争解決）について理解している。 ・立憲主義について社会契約説を前提に理解している。 ・社会契約説を基盤として基本的人権が確立された背景・経緯・人類の努力を史料等を通じて歴史的に考察し、その性格を理解している。 ・憲法制定後の社会変化の中で新しい人権が主張されるようになった背景を理解するとともに、主張の限界や課題についても理解している。
	5	・権利と義務の関係 ・議会制民主主義と世界の政治体制 ・国会の組織と立法 ・内閣の機構と行政	5	・権利と義務の関係について多面的・多角的に考察し、表現する。 ・民主政治の「原型」が大統領制・議院内閣制の特徴としてどのように表れている理解する。 ・国会の地位と構成、法の制定過程、国会の課題について多面的・多角的に考察する。 ・内閣と国会の関係、内閣総理大臣と内閣の権限、今日の行政の課題について多面的・多角的に理解する。	・私法の基本原則（契約自由の原則と契約の効果）の具体例を通して、権利の義務の関係について理解している。 ・大統領制、議院内閣制を採用する国の事例を通して、その特徴を理解し、日本の議会政治について展望することができる。 ・国権の最高機関、唯一の立法機関としての国会の位置づけ、国会議員が国民代表であることの意味、国会の課題について理解している。 ・三権分立、議院内閣制を前提に内閣と国会の関係、内閣の首長としての内閣総理大臣の地位・権限について理解している。
	6	・裁判所の機能と司法制度 ・諸課題へのアプローチ（現代政治のあり方） ・地方自治と住民の権利 ・政党政治と選挙 ・諸課題へのアプローチ（主権者としての政治参加のあり方）	6	・司法権の独立と日本の裁判制度について理解する。 ・国民の司法参加のあり方について、多面的・多角的に考察する。 ・日本国憲法と現代政治のあり方について多面的・多角的に考察する。 ・地方自治の本旨の意味、日本の地方自治制度について理解する。 ・住民の権利と住民運動の意義について考察する。 ・政党の意義と役割について理解する。 ・日本の政党政治や選挙の課題、主権者としての政治参加のあり方について考察する。	・司法権の独立、裁判官の職権の独立、身分保障について理解している。 ・私法制度改革がさげばれてきた背景、裁判員裁判導入の経緯について、主体的な態度で考察することができる。 ・よりよい社会の実現に向けて、現代社会の諸課題について具体的なかつ主体的に考察しようとしている。 ・地方自治の本旨の意味を、日本国憲法の理念との関わりの中で理解し、住民の権利と住民運動の意義についても、望ましい政治のあり方、主権者としての責任について理解しようとする態度が認められる。 ・政党政治や選挙の課題を、現実の政治状況の中から理解しようとしている。
	7	第2編第1章 ・国際社会の変遷 ・国際法の意義 ・国際機構の役割 ・国際紛争と軍縮への取り組み ・諸課題へのアプローチ（国際法の役割と課題）	7	・歴史的な経緯を踏まえて、21世紀以降の国際社会の動向について理解する。 ・国際社会の多極化や国際協力について多面的・多角的に理解する。 ・国際法と種類や特徴について理解する。 ・国際連合をはじめさまざまな国際機構とそのしくみについて理解する。 ・領土問題などの国際紛争の解決のあり方について多面的・多角的に考察し、理解する。 ・勢力均衡と集団安全保障の違いについて理解する。	・国際社会ではなぜ紛争が絶えないのか。国際社会と国内社会の違いを踏まえ、紛争・戦争回避に向けた人類の取り組みについて考察しようとする態度が認められる。 ・国際法の特徴を、国内法との比較において理解している。 ・国際紛争の起こる要因、それに対して国連をはじめとする国際機関がどのように取り組み、どのような点に課題があるのかを、現実の国際社会の動向を踏まえて理解しようとする態度を持つ。 ・国際法の果たす役割について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に考察しようとしている。
2 学期	9	・国際機構の役割 ・国際紛争と軍縮への取り組み ・諸課題へのアプローチ（国際法の役割と課題）	5	・平和主義の理念と日本の防衛政策の関連について理解する。 ・日米安全保障体制の変化と自衛隊の海外派遣について理解する。 ・国際社会において日本がこれから果たすべき役割について多面的・多角的に考察する。	・戦後構築された日米安全保障体制が、どのような変遷を経て今日に至っているか、そこに憲法の平和主義の理念との間でどのような問題が生じ、議論が交わされてきたかについて理解している。 ・自衛隊の存在について、合憲・違憲の見解について理解している。
	10	・日本の安全保障と国際貢献 ・諸課題へのアプローチ（日本の国際貢献のあり方）	6	・国際紛争の帰結、核兵器廃絶のためにどのような努力が成されてきたのか多面的・多角的に考察する。	・核廃絶に向けた努力を、国家（政府）間のみならず、被爆者団体、NGOなど民間の活動を含めて理解しようとしている。紛争・戦争の絶えない国際社会において、核使用の危機が高まる現状を理解し、足下からの平和運動の意義について考察しようとしている。
	11	・日本の安全保障と国際貢献 ・諸課題へのアプローチ（日本の国際貢献のあり方）	6	・国際紛争の帰結、核兵器廃絶のためにどのような努力が成されてきたのか多面的・多角的に考察する。	・核廃絶に向けた努力を、国家（政府）間のみならず、被爆者団体、NGOなど民間の活動を含めて理解しようとしている。紛争・戦争の絶えない国際社会において、核使用の危機が高まる現状を理解し、足下からの平和運動の意義について考察しようとしている。

	12	第1編【経済分野】 市場経済の機能と限界 持続可能な財政および租税のありかた 金融を通じた経済活動の活性化 経済活動と福祉の向上	3	・市場の機能と限界や、市場の失敗などの解決のあり方について考察する。 ・持続可能な財政および租税のあり方について考察する。 ・金融を通して、経済活動を活性化するための仕組みやあり方を考察する。 ・経済活動に求められる効率性の追求と、福祉の向上で求められる公平性や公正さとの関連について考察する。	・経済の原理原則について知識を持つことができ、経済の仕組みを理解しようとしている。 ・公平な租税負担という理想について考察でき、その知識を生かして現実的な仕組みを考えることができる。 ・経済活動の仕組みを理解するとともに、メリットやデメリットを考え、公平性や公正さについて深く考察できる。
3 学期	1	第2章現代日本の諸課題の探究	3	・少子化や高齢化、地域間格差、世代間格差の問題について考察する。	・現代日本に山積する諸課題を知り、その改善方法を経済面から具体的に考察できる。
	2	第2編【経済分野】 第3節相互依存関係が深まる国際経済の特質 国際経済において求められる日本の役割	5	・国民経済と国際経済との関係において、国益と地球的な規模での協調が求められている現状と問題点について考察する。 ・国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割について考察する。	・国際経済における矛盾（南北問題・南南問題）について理解を深めることができ、その解決に向けて真剣に向き合うことができる。
	3	第2章国際社会の諸課題の探究	3	・グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容と、持続可能な国際社会づくりについて考察する。	・グローバルな経済を送るうえで、そのルールやメリットについて考察することができる。 ・最終的には、経済だけでなく、政治や文化・歴史を包含した考えの大切さに気づくことができる。

学年	2	コース等	文系（内進）	教科	数学	科目	数学	単位数	5
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅱ 数学B 数学C（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C/サクシード 数学Ⅱ+B+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	B 数列		等差数列・等比数列の一般項と和	性質を理解し一般項や和を求め、諸問題の解決に活用できる。
	5		25	いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	Σ や階差数列の仕組みを理解し、工夫して数列の和を求める。 隣接する項の関係性を捉え、適切な変形により一般項を導ける。 推論の仕組みを理解し、自然数に関する命題を論理的に証明する。
	6	B 統計的な推測	15	確率分布 統計的な推測	確率変数と分布の性質を理解し、期待値や分散を適切に算出する。 標本調査の仕組みを理解し、推定や検定の考え方を実社会に活かす。
	7	C 平面上のベクトル	10	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	ベクトルの概念を理解し、成分や内積を用いて正しく演算できる。 位置ベクトルを理解し、平面上の図形をベクトルを用いて表現する。
2 学 期	9	C 平面上のベクトル	8	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	ベクトルの概念を理解し、成分や内積を用いて正しく演算できる。 位置ベクトルを理解し、平面上の図形をベクトルを用いて表現する。
	10	C 空間のベクトル	10	空間のベクトル	空間の座標系を理解し、ベクトルを用いた図形操作や立式を行う。
	11	演習			定理や公式を利用して、解法を作成しようとする
	12				各単元の概念を深く理解し、それらを結びつけて高度な問題を解く。 思考の過程を整理し、客観的かつ論理的な整合性を持つ記述を行う。 多様な手法から最適な方針を選択し、筋道立てて解決の過程を創る。
3 学 期	1	演習	30		定理や公式を利用して、解法を作成しようとする
	2				各単元の概念を深く理解し、それらを結びつけて高度な問題を解く。
	3				思考の過程を整理し、客観的かつ論理的な整合性を持つ記述を行う。 多様な手法から最適な方針を選択し、筋道立てて解決の過程を創る。

学年	2	コース等	文系（北新）	教科	数学	科目	数学	単位数	5
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅱ 数学B 数学C（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C/サクシード 数学Ⅱ+B+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ 定期考査 ・ 小テスト・確認テスト ・ 宿題・課題プリント	・ 定期考査 ・ 小テスト・確認テスト ・ 宿題・課題プリント	・ 授業中の学習への取り組みの様子（観察） ・ 課題への取り組み状況・提出状況 ・ 振り返りシート・学習記録 ・ ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	Ⅱ 図形と方程式	17	点・直線の座標と平面図形の関係 直線の方程式（傾き、2点を通る直線） 円の方程式とその性質 図形の位置関係（平行・垂直・交点） 軌跡と領域	直線や円の方程式の意味や性質を理解している。 図形の位置関係を方程式を用いて正しく求めることができる。 図形を座標や方程式で表し、事象を数学的に考察している。 解決過程や結果を論理的に説明・表現している。 学習に意欲的に取り組み、課題に粘り強く向き合っている。
	5				
	6	Ⅱ 三角関数	20	三角関数 加法定理	角の拡張を理解し、単位円を用いて関数の性質やグラフを考察する。 定理を正しく運用し、倍角や半角の公式を諸問題の解決に活用する。
2 学 期	7				
	9	B 統計的な推測	15	確率分布 統計的な推測	確率変数と分布の性質を理解し、期待値や分散を適切に算出する。 標本調査の仕組みを理解し、推定や検定の考え方を実社会に活かす。
	10	B 数列	17	等差数列・等比数列の一般項と和 いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	性質を理解し一般項や和を求め、諸問題の解決に活用できる。 Σ や階差数列の仕組みを理解し、工夫して数列の和を求める。 隣接する項の関係性を捉え、適切な変形により一般項を導ける。 推論の仕組みを理解し、自然数に関する命題を論理的に証明する。
	11	C 平面上のベクトル	17	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	ベクトルの概念を理解し、成分や内積を用いて正しく演算できる。 位置ベクトルを理解し、平面上の図形をベクトルを用いて表現する。
	12	C 空間のベクトル	10	空間のベクトル	空間の座標系を理解し、ベクトルを用いた図形操作や立式を行う。
3 学 期	1	Ⅱ 微分法と積分法	30	微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法	微分の意味を理解し、導関数を用いて接線の方程式を導出できる。 増減表により関数の変化を捉え、最大・最小や不等式の証明に使う。 不定積分・定積分の計算を習熟し、面積の算出へ多角的に応用する。
	2				
	3				

学年	2	コース等	理系（内進）	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅱ 数学B 数学C 数学Ⅲ（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C/数学Ⅲ+C，サクシード 数学Ⅱ+B+C/数学Ⅲ+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト・確認テスト ・宿題・課題プリント	・定期考査 ・小テスト・確認テスト ・宿題・課題プリント	・授業中の学習への取り組みの様子（観察） ・課題への取り組み状況・提出状況 ・振り返りシート・学習記録 ・ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	B 数列	17	等差数列・等比数列の一般項と和 いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	性質を理解し一般項や和を求め、諸問題の解決に活用できる。 Σ や階差数列の仕組みを理解し、工夫して数列の和を求める。 隣接する項の関係性を捉え、適切な変形により一般項を導ける。 推論の仕組みを理解し、自然数に関する命題を論理的に証明する。
	5	C 平面上のベクトル	17	ベクトルとその演算	ベクトルの概念を理解し、成分や内積を用いて正しく演算できる。
	6	C 空間のベクトル	10	ベクトルと平面図形 空間のベクトル	位置ベクトルを理解し、平面上の図形をベクトルを用いて表現する。 空間の座標系を理解し、ベクトルを用いた図形操作や立式を行う。
	7	C 複素数平面	15	複素数平面	複素数の幾何的意味を理解し、極形式等を用いて図形問題を解く。
2 学 期	9	B 統計的な推測	15	確率分布 統計的な推測	確率変数と分布の性質を理解し、期待値や分散を適切に算出する。 標本調査の仕組みを理解し、推定や検定の考え方を実社会に活かす。
	10	C 式と曲線	17	2次曲線 媒介変数表示と極座標	放物線・楕円・双曲線の定義を理解し、その性質を多角的に考察する。 多様な曲線の表し方を理解し、座標系を変換して図形の特徴を捉える。
	11	Ⅲ 関数	10	関数	分数関数・無理関数の性質を理解し、逆関数や合成関数を考察する。
	12	Ⅲ 極限	17	数列の極限 関数の極限	無限数列の挙動を理解し、漸化式や無限等比級数の収束を判断する。 関数の連続性や極限を理解し、極限値を論理的な手順で計算できる。
3 学 期	1	Ⅲ 微分法	10	導関数 いろいろな関数の導関数	積や商、合成関数の微分法を習得し、関数の導関数を正しく求める。 指数・対数・三角関数の微分を理解し、多様な関数の計算に習熟する。
	2	Ⅲ 微分法の応用	15	導関数の応用 いろいろな応用	接線、増減、凹凸を調べ、グラフの概形や近似値を論理的に考察する。 速度や加速度、方程式・不等式への活用を通して現象を数理的に捉える。
	3	Ⅲ 積分法とその応用	10	不定積分 定積分 積分法の応用	諸関数の不定積分の計算手法を習得し、関数の特性を理解する。 置換積分や部分積分を用いて、多様な定積分の値を正確に求める。 積分法を用いて、面積、体積、曲線の長さを論理的に算出する。

学年	2	コース等	理系（北新）	教科	数学	科目	数学	単位数	6
使用教科書（発行所名）	新編 数学Ⅱ 数学B 数学C 数学Ⅲ（数研出版）								
補助教材等	チャート式基礎からの数学Ⅱ+B+C/数学Ⅲ+C, サクシード 数学Ⅱ+B+C/数学Ⅲ+C								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

数学的な概念や原理・法則についての知識・技能を習得し、事象を数学的に捉え、論理的に考察する思考力・判断力・表現力を育成する。
数学を活用して問題解決に取り組もうとする主体的な態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学に関する基本的な概念・原理・法則について理解し、それらを用いて計算や作図、処理を正確に行うなど、数学的な技能を身に付けているかを評価する。	数学的な見方・考え方を働かせて事象を捉え、課題を発見・解決する過程において、論理的に考察し、適切に判断するとともに、その過程や結果を数学的に表現しているかを評価する。	数学の学習に関心を持ち、粘り強く課題に取り組むとともに、自己の学習を振り返り改善しようとするなど、主体的に数学を学ぼうとする態度が身に付いているかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録 - ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	Ⅱ 図形と方程式	17	点・直線の座標と平面図形の関係 直線の方程式（傾き、2点を通る直線） 円の方程式とその性質 図形の位置関係（平行・垂直・交点） 軌跡と領域	直線や円の方程式の意味や性質を理解している。 図形の位置関係を方程式を用いて正しく求めることができる。 図形を座標や方程式で表し、事象を数学的に考察している。 解決過程や結果を論理的に説明・表現している。 学習に意欲的に取り組み、課題に粘り強く向き合っている。
	5 6	B 数列	25	等差数列・等比数列の一般項と和 いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	性質を理解し一般項や和を求め、諸問題の解決に活用できる。 Σ や階差数列の仕組みを理解し、工夫して数列の和を求める。 隣接する項の関係性を捉え、適切な変形により一般項を導ける。 推論の仕組みを理解し、自然数に関する命題を論理的に証明する。
	7	Ⅱ 三角関数	10	三角関数	角の拡張を理解し、単位円を用いて関数の性質やグラフを考察する。
2 学期	9	Ⅱ 三角関数	10	加法定理	定理を正しく運用し、倍角や半角の公式を諸問題の解決に活用する。
	10	Ⅱ 微分法と積分法	18	微分係数と導関数 関数の値の変化 積分法	微分の意味を理解し、導関数を用いて接線の方程式を導出できる。 増減表により関数の変化を捉え、最大・最小や不等式の証明に使う。 不定積分・定積分の計算を習熟し、面積の算出へ多角的に応用する。
	11	C 平面上のベクトル	17	ベクトルとその演算 ベクトルと平面図形	ベクトルの概念を理解し、成分や内積を用いて正しく演算できる。 位置ベクトルを理解し、平面上の図形をベクトルを用いて表現する。
	12	C 空間のベクトル	10	空間のベクトル	空間の座標系を理解し、ベクトルを用いた図形操作や立式を行う。
3 学期	1	B 統計的な推測	15	確率分布 統計的な推測	確率変数と分布の性質を理解し、期待値や分散を適切に算出する。 標本調査の仕組みを理解し、推定や検定の考え方を実社会に活かす。
	2	Ⅲ 関数	10	関数	分数関数・無理関数の性質を理解し、逆関数や合成関数を考察する。
	3	Ⅲ 極限	10	数列の極限 関数の極限	無限数列の挙動を理解し、漸化式や無限等比級数の収束を判断する。 関数の連続性や極限を理解し、極限値を論理的な手順で計算できる。

学年	2	コース等	文系	教科	理科	科目	科学と人間生活 (物理・生物・地学分野)	単位数	1
使用教科書(発行所名)		高等学校科学と人間生活 (第一学習社)							
補助教材等		ワークシート							

1. 教科・科目の目標(学習目標)

(1) 自然と人間生活との関わりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて 理解を深め、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
 (2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて化学的に探究する力を養う。
 (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、化学的に探究しようとする態度を養うとともに、化学に対する興味・関心を高める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
(1) 光や熱(2) 生命(3) 宇宙や地球に関する観察実験を行い、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	(1) 光や熱(2) 生命(3) 宇宙や地球について、問題を見だし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	(1) 光や熱(2) 生命(3) 宇宙や地球について、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	考查の知識問題を解くことができる。小テストや単元テストを解くことができる。	既習内容に課題を見出したり実験レポートを作成したりできる。そのうえで、結果を考察し表現できる。考查の思考問題を解いたり記述することができる。	課せられた課題を提出すると共に、その取り組みに自主性(オリジナリティ)が見られる。

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質と その利用	2	- 熱の移動形態に種類があることを、体験から理解する。 - 物質の熱容量・比熱、熱量の保存について、身の回りにある物質がこれらと関係し、利用されていることに気付く。	- 身の回りに熱に関わる現象を見出し、熱の性質から科学的に思考し、熱を有効利用できるような判断ができる。 - 自然界に見られる熱に関する現象に関心を持ち、意欲的に調べようとする。
	5	第1節 熱の性質と その利用	3	- エネルギーには様々な形があり、互いに変換することを実験を通じて理解する。また、エネルギーが全体として保存されることを理解する。 - 力学的エネルギーと仕事との関わりから、エネルギーという概念を理解する。	- 人間生活の中に、エネルギーに関する科学技術を見出し、エネルギーが有効に利用されているかを総合的に判断して表現できる。 - エネルギーが変換することと、保存することを理解できる。
	6	第2節 光の性質と その利用	3	- 直進性、屈折、散乱、分散などの光に関する性質、現象から、身の回りの現象に関連していることを理解する。 - 可視光は電磁波の一種であることを知り、波の性質や、電磁波は波長の違いによって利用されていることを学習する。	- 光が波であることを、回折や干渉など波の性質を持つことから説明できる。 - 身の回りに光の現象を見出し、波の性質を使い科学的に分析して、総合的に判断し、表現できる。
	7	第Ⅳ章 地球や宇宙 の科学 第1節 自然景観と 自然災害	3	- 身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。 - 火山の噴火による噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について、論理的に思考できる。	- 日本列島周辺のプレートの動きを理解している。 - 日本の火山活動や、火山の噴火と火山の形について理解している。 - 火山の噴火や火山形成過程について理解しようとしている。
2 学期	9	第Ⅱ章 生命の科学 第1節 ヒトの生命 現象	4	- 生物に共通する特徴と多様性を理解する。 - タンパク質のはたらきと構造を理解する。 - 遺伝子の本体DNAの塩基配列がタンパク質のアミノ酸配列を指定しタンパク質が合成される過程を理解する。 - 血糖濃度調節がホルモンで行われていることを理解する。	- 身近な生命現象に関心をもち、自主的に調べた。 - タンパク質はアミノ酸のポリマーであること、タンパク質によってアミノ酸配列は決まっていることやDNAの塩基配列からタンパク質合成過程を説明できる。
	10	第1節 ヒトの生命 現象	4	- 糖尿病の種類と原因を理解する。 - 免疫を支えるリンパ球の種類とはたらきを理解する。 - 予防接種で感染症を予防するしくみやアレルギーが発症するしくみを理解する。 - 眼の構造とはたらきを学び、視覚の成立過程を理解する。	- 血糖濃度を調節するための仕組みや抗原抗体反応の仕組みを説明できる。 - 免疫反応とアレルギーの関係を説明できる。 - 眼の網膜で受容した光刺激を脳で処理することで視覚が生じる過程を説明できる。
	11	第2節 身近な微生物 とその利用	4	- 発酵と腐敗を学び、発酵食品と微生物の種類を理解する。 - 酵母のアルコール発酵と乳酸発酵について理解する。 - 抗生物質のように微生物から多様な医薬品がつけられることを理解する。	- 発酵や腐敗を説明でき、それらを応用すると発酵食品がつけられることを説明できる。 - 微生物によってつけられる抗生物質の発見の歴史について理解している。 - 微生物を利用して有用な医薬品がつけられていることを理解している。
	12	第2節 身近な微生物 とその利用	3	同上	同上
3 学期	1	第Ⅳ章 地球や宇宙 の科学 第1節 自然景観と 自然災害	3	- 地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理解している。 - 災害と防災について学習する態度を示し、火山の噴火や地震による直接的な被害や二次災害、災害の予知と防災について、科学的・論理的に理解し、的確に表現できる。	- 日本列島の地震活動と地震発生の仕組みを理解している。 - おもにプレートの活動によって地震がおこることを考察できる。 - 地震に関心をもち、地震発生のしくみを説明できる。
	2	第1節 自然景観と 自然災害	2	- 生物の生存に不可欠な太陽に興味をもち、太陽系の中心である太陽と、太陽系を構成する天体の概観について理解する。 - 私たちのすむ地球に関心をもち、地球型惑星と木星型惑星の違い、太陽系外縁天体、小惑星、彗星の特徴について、理解する。	- 太陽系を構成する惑星を特徴から、地球型惑星と木星型惑星に大別できる。 - 太陽系を構成する天体に興味をもち、太陽系を構成する天体の共通点や相違点を理解しようとする。
	3	第2節 太陽と地球	3	- 星座や月の動きに興味を抱き、太陽の年周運動や、月の動きと形の変化について、科学的に理解する。 - 潮汐について関心をもち、潮汐がどのようにしておこるかを科学的に理解する。 - 暦がつけられた経緯を理解する。	- 地球と月、太陽の位置関係を踏まえ潮汐現象を説明できる。 - 天体の動きについて意欲的に学習し、太陽や月の動きと潮汐、暦との関係を理解しようとする。

学年	2	コース等	文系	教科	理科	科目	科学と人間生活 (化学分野)	単位数	1
使用教科書（発行所名）		高等学校科学と人間生活 （第一学習社）							
補助教材等		ワークシート							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- （１）自然と人間生活との関わりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解を深め、化学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。
- （２）観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて化学的に探究する力を養う。
- （３）自然の事物・現象に進んで関わり、化学的に探究しようとする態度を養うとともに、化学に対する興味・関心を高める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物質の科学に関する観察実験を行い、基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質の科学について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。	物質の科学について、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査の知識問題 - 小テスト - 単元テスト	- 定期考査の論述問題や思考問題 - 実験レポートの作成および結果の考察	課題の提出状況及び充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	第Ⅰ章 材料の科学 第1節 材料とその利用	2	・日常生活に関わりの深い銅、鉄、アルミニウムなどを取り上げ、その性質と用途を学習する。 【化学基礎との関連】金属のイオン化傾向、周期表	・金属によってイオンへのなりやすさが異なることと関連付けて理解している。
	5	第1節材料とその利用	3	・身の回りのプラスチックについてその性質と用途を関連付けて学習する。 【化学基礎との関連】物質の構成元素、化学結合	・身の回りで用いられているプラスチックの合成方法について、共有結合と関連付けて理解している。 ・身の回りで用いられているプラスチックの用途について、その特性と関連付けて理解している。
	6	第2節衣料と食品	3	・綿、絹、羊毛などの天然繊維とポリエステル繊維、ナイロン繊維、アクリル繊維などの合成繊維を取り上げ、それらの性質と用途を関連付けて学習する。 【化学基礎との関連】物質の構成元素、化学結合、酸・塩基	・各繊維の燃焼性・溶解性・酸塩基への耐性を踏まえ、用途を理解している。
	7	第2節衣料と食品	3	・炭水化物、タンパク質及び脂質を扱い、それらの性質を学習する。 【化学基礎との関連】物質の構成元素、化学結合	・各物質の化学構造の違いが、物質の構成に関わる結合や性質の違いとどのように関わっているかを理解している。
2 学期	9	第2節資源の再利用	4	・日常生活で不要になった物を廃棄する際の注意事項や、再利用の過程を学習する。 【化学基礎との関連】物質の構成元素、化学結合	・各物質の性質に応じて、再利用の仕方や再利用できる製品の違いがあることを理解している。
	10	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（酸化・還元）	4	・酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 ・酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 【化学基礎との関連】酸化・還元、化学結合	・酸化と還元が電子の授受によることを理解している。
	11	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（酸化数）	4	・酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。 ・反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 【化学基礎との関連】酸化・還元	・酸化と還元の定義について、友達と話し合いながら確認し、酸化数の増減について見いだす活動を行っている。
	12	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（酸化剤・還元剤）	3	・代表的な酸化剤、還元剤としては、過マンガン酸カリウムや過酸化水素、ヨウ化カリウムであることを知る。 ・酸化還元反応の化学反応式を作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 ・酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。 【化学基礎との関連】酸化・還元、物質質量と化学反応式	・酸化還元反応式の反応式について理解している。 ・酸化還元滴定操作における基本的な技術を習得するとともに、実験などを通じて結果を分析・解釈することができる。
3 学期	1	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（イオン化傾向）	3	・金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 ・金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 【化学基礎との関連】酸化・還元、金属のイオン化傾向	・金属のイオン化傾向について理解している。 ・金属の陽イオンへのなりやすさを比較測定し、友達と話し合いながら科学的に考察している。
	2	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（電池）	2	・電池のしくみを理解する。 ・身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を知る。 【化学基礎との関連】酸化・還元、金属のイオン化傾向	・電池の構造やしくみ及び金属の製錬について理解している。 ・電池の構造とその用途について、友達と話し合いながら、身の回りでどのように使われているかという視点で考えようとしている。
	3	第Ⅴ章 これからの科学と人間生活（応用例）	3	・金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 ・化学基礎で学んだ知識を活用し、身の回りで化学が利用されているものを探す。 【化学基礎との関連】酸化・還元、物質の構成元素、化学結合	・身の回りで化学が利用されているものを探し、それを他者と共有している。

学年	2	コース等	理系	教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		物理基礎(数研出版)							
補助教材等		研究ノート物理基礎 リードα物理基礎							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

①日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。また、結果の記録や整理、活用の仕方を身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、学んだ知識をもとに生じた疑問を自ら探求していけるか。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 課題の取り組み内容	- 定期考査 - 課題(思考問題)の内容	- ワークシート - 課題への取り組み状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第1章 運動とエネルギー ・速度 ・加速度 ・相対速度	6	・直線運動の変位，速度について ・等加速度運動について	・物体の速さの式を理解している。 ・等速直線運動の式および $x-t$ 図， $v-t$ 図を理解できている。 ・平均の速度と瞬間の速度の違いを理解している。 ・直線上の合成速度，相対速度の意味と求め方を理解している。 ・加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。 ・等加速度直線運動を表す3つの式やグラフを正しく使うことができる。
	5	・落体の運動 第2章 運動の法則 ・力とはたらき ・力のつりあい ・運動の法則 ・摩擦を受ける運動	9	・物体の重力による運動について ・様々な力について ・ニュートン運動の三法則について ・摩擦力について	・自由落下や鉛直投射に関する式を使うできる。 ・重力，垂直抗力，摩擦力，糸が引く力，弾性力について理解できている。 ・力がベクトル量であることを認識し，合成や分解ができる。 ・物体にはたらく力を指摘し，つりあいの式が立てられる。 ・作用・反作用の2力とつりあいの2力を区別して考えることができる。 ・運動をしている物体について，運動方程式を立てて考えることができる。 ・注目する物体に摩擦力はどの向きに現れるか，また最大摩擦力の大きさを求める式を理解している。 ・静止摩擦力を用いた力のつりあいの式を立てたり，動摩擦力を用いた運動方程式を立てることができる。
	6	・浮力 ・液体気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー ・仕事とエネルギー	10	・圧力と浮力について ・エネルギー，仕事の原理，仕事率の定義について ・運動エネルギーと位置エネルギーについて	・圧力を求める式を理解できている。 ・水圧を求める式を理解し，水中にある物体が静止しているとき，物体にはたらく力のつりあいの式を立てることができる。 ・水中にある物体にはどのような浮力がはたらくかを理解している。 ・仕事，仕事率を計算して求めることができる。 ・「仕事の原理」を理解している。 ・運動エネルギー，重力による位置エネルギー，弾性力による位置エネルギーの式を理解している。 ・運動エネルギーの変化は物体にされた仕事に等しいことを理解している。
	7	・エネルギー保存 第2編 熱 ・熱とエネルギー	5	・力学的エネルギー保存則について ・保存力以外の力がした仕事と力学的エネルギーの変化について ・熱運動・温度・熱の伝わり方・物質の三態について ・熱量保存について ・熱と仕事の同等性と違いについて ・熱力学第一法則，熱機関について	・さまざまな物体の運動について，力学的エネルギー保存則を用いることができる。 ・保存力以外の力がはたらくとき，その仕事の量だけ物体の力学的エネルギーは変化することを理解している。 ・温度，熱運動，熱量，比熱，熱容量などが正しく理解されている。 ・熱量の保存について理解し，熱量保存の式を立てることができる。 ・物質の状態変化における熱のやりとりについて理解している。 ・仕事と熱の関係や熱力学第一法則について理解している。 ・熱機関と熱機関の効率について理解している。

2 学 期	9	第3編 波 ・波と媒質の運動 ・波の伝わり方 ・音の性質 ・振動と共振共鳴	8	・波の性質と媒質の運動について ・波の重ね合わせの原理と波の独立性について ・反射や定在波のでき方について ・弦の振動や気柱の振動について ・共振や共鳴について	・波の発生原理や基本事項を理解している。 ・縦波と横波の違いを理解している。 ・縦波を横波の形で表現できている。 ・定常波の生じるしくみを理解している。 ・波の重ねあわせの原理や自由端・固定端反射について理解している。 ・弦や気柱の振動と音の高さの関係について理解している。 ・気柱の振動の際、管内に生じる定在波の腹は管口より外にできることを理解している。
	10	第4編 電気 第5編 物理学と社会	6	・静電気の発生する仕組みについて ・電流の正体について ・オームの法則と抵抗について ・ジュール熱、電力量、電力と仕事・エネルギーの関係 ・電流と磁場の関係や磁場から電流が受ける力について ・直流と交流の違いについて ・電力の輸送について ・様々な種類のエネルギーと相互変換について	・ジュールの法則について理解している。 ・電力量と電力の意味（およびその公式）について理解している。 ・抵抗率、消費電力について理解し、それをもとに考えることができる。 ・直線電流、円形電流、ソレノイドのつくる磁場の向きを判断できる。 ・電磁誘導の基礎を理解している。 ・交流電圧の基本について理解している。 ・エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解している。
	11				
	12				
3 学 期	1				
	2				
	3				

学年	2	コース等	理系	教科	理科	科目	物理	単位数	2
使用教科書（発行所名）		物理(数研出版)							
補助教材等		研究ノート物理 リードα物理							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

①日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 ③物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。また、結果の記録や整理、活用の仕方を身につけているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか。また、学んだ知識をもとに生じた疑問を自ら探求していけるか。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・課題の取り組み内容	・定期考査 ・課題(思考問題)の内容	・ワークシート ・課題への取り組み状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4				
	5				
	6				
	7				
2 学 期	9				
	10	第1編 力と運動 ・ 平面内の運動 ・ 剛体 ・ 運動量と力積 ・ 運動量保存則 ・ 反発係数	16	・ 速度や加速度のベクトルを用いた扱いについて ・ 放物運動について ・ 力のモーメントについて ・ 平行な2力の合成と重心について ・ 剛体の転倒、安定について ・ 運動量と力積の関係について ・ 運動量保存の法則について ・ 反発係数について	・ 変位と移動距離の違いを理解している。 ・ 平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 ・ 加速度は速度の時間変化を表すものであり、ベクトル量であること、またその求め方を理解できている。 ・ 水平投射は鉛直方向には自由落下、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を使うことができる。 ・ 斜方投射は鉛直方向には鉛直投げ上げ、水平方向には等速直線運動をしていることを理解し、適切に式を使うことができる。 ・ 力のモーメントについて理解している。 ・ 与えられた剛体の重心を求めることができる。 ・ 剛体の転倒する条件を理解している。 ・ 運動量の変化はその間に物体が受けた力積に等しいことを理解している。 ・ 斜め衝突について理解している。 ・ 運動量保存則と反発係数の式から物体の速さを求めることができる。 ・ 弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解している。
	11	・ 等速円運動 ・ 慣性力 ・ 単振動	19	・ 慣性力について ・ 等速円運動の速度、角速度、向心加速度、向心力や遠心力について ・ 単振動と円運動の関係について ・ 単振動を引き起こす力と単振動の周期	・ 等速円運動をしている物体の回転の速度、角速度、周期、回転数の定義が理解できている。 ・ 等速円運動するのに必要な向心力を理解し、運動方程式を立てられる。 ・ 慣性力を含めたつりあいの式を立てることができる。 ・ 単振動の変位、速度、加速度の式、運動方程式を理解している。 ・ ばね振り子の周期を表す式を導く過程を理解し、周期や振幅、最大の速さ理解できている。 ・ 単振り子の周期を導く過程を理解し、周期を求めることができる。
	12	・ 万有引力	13	・ ケプラーの法則について ・ 万有引力の法則について ・ 万有引力を受ける物体の運動について	・ ケプラーの法則を理解している。 ・ 万有引力の式を理解している。 ・ 万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。

3 学 期	1	第2編 熱と気体 ・ 気体の法則 ・ 気体分子の運動 ・ 気体の状態変化	11	・ 気体の状態が変化するとき成立する諸法則、及び、状態方程式について ・ 原子・分子のミクロな立場から分子運動と気体の圧力や温度等の関係について ・ 気体の内部エネルギー、気体の仕事について ・ 熱力学第1法則について ・ 熱力学第2法則について	・ ボイル・シャルルの法則を用いることができる。 ・ 理想気体の状態方程式を用いることができる。 ・ 気体の熱運動から圧力の大きさを表す式を導くことができる。 ・ 気体分子の平均運動エネルギーと絶対温度の関係を理解している。 ・ 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解している。 ・ 気体の状態変化をp-V図や式で表すことができる。 ・ マイヤーの関係やボアソンの法則を適切に用いることができる。 ・ 熱効率を求めることができる。
	2	第3編 波 ・ ドップラー効果	10	・ ホイヘンズの原理について ・ 波の式について ・ 音の性質について ・ ドップラー効果を波の伝わり方から考える ・ 観測者が運動する場合や音源、観測者がともに運動する場合のドップラー効果について	・ 波が伝わるようすを、グラフで表現することができる。 ・ 正弦波の式を正しく表すことができる。 ・ 波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解している。 ・ 波の反射・屈折の法則について理解している。 ・ 音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解している。 ・ ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。
	3	・ 光速、偏光 ・ 分散、散乱 ・ 光の屈折 ・ レンズ、鏡 ・ 光の干渉	14	・ 光の速さが媒質によって変化するために、屈折が起こることを理解する。 ・ 光が横波であること、色は波長の違いによるものであることを理解する。 ・ 光の諸現象について ・ レンズと球面鏡による屈折と反射について ・ 干渉実験について	・ 散乱について理解し、夕日と晴天の空の色が違う理由を説明できる。 ・ レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、使うことができる。 ・ ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。

学年	2	コース等	理系	教科	理科	科目	化学	単位数	3
使用教科書（発行所名）	化学Vol.1理論編（東京書籍）化学Vol.2物質編（東京書籍）								
補助教材等	NEW BLOBAL 化学＋化学基礎 化学研究ノート ニューステージ化学図表								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- (1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。
 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 (3) 化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象に関わり、原理・法則を理解している。 理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に考察できる。	日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	定期考査、小テスト	定期考査、小テスト、レポート	レポート、授業態度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	物質の状態	5	物質の三態 状態変化とエネルギー、状態変化と分子間力 気体・液体間の状態変化 気体の圧力、気液平衡と蒸気圧、沸騰、状態図	・状態変化を粒子の熱運動と拡散から説明できる。 ・物質の融点、沸点を粒子間に働く引力と関連付けて考えることができる。 ・気液間の平衡や、沸騰について状態変化を用いて説明できる。 ・蒸気圧曲線の見方を理解している。
	5	気体の性質	8	気体 ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則 気体の状態方程式 気体の状態方程式、気体の分子量、混合気体、理想気体と実在気体	・ボイルの法則とシャルルの法則を理解している。 ・気体の状態方程式を理解している。 ・気体の状態方程式を利用し、分子量測定ができる。 ・水上置換の気体は水蒸気との混合気体であることを理解し、捕集した気体の圧力の求め方を表現できる。 ・理想気体と実在気体の違いを理解している。
	5 6	溶液の性質	10	溶解 溶解のしくみ、固体の溶解度、溶液の濃度、気体の溶解度 希薄溶液の性質 蒸気圧降下と沸点上昇、沸点上昇・凝固点降下と分子量、 浸透圧、浸透圧と分子量 コロイド コロイド粒子、コロイド溶液と性質、コロイド溶液の種類	・溶解のしくみと分子の極性を関連させ考えることができる。 ・再結晶して得られる結晶の量を求められる。 ・質量パーセント濃度、モル濃度、質量モル濃度を求められる。 ・生活の中の気体の溶解（減圧症など）についてヘンリーの法則と関連させて考えることができる。 ・蒸気圧降下が起こることを説明できる。 ・ファントホッフの法則から分子量を求めることができる。 ・コロイド粒子について、その性質を理解している。 ・コロイド溶液の実験を元に、その性質と現象について考察している。
	7	固体の構造	7	結晶 結晶の種類 金属結晶の構造 イオン結晶の構造 分子結晶と共有結合の結晶	・単位格子と配位数について理解している。また、金属結晶の構造について、それぞれの配列、配位数、充填率について理解している。 ・単位格子の一辺の長さや原子半径の関係について、数学的に考えている。 ・イオン結晶の単位格子に含まれるイオンの数と配位数について理解している。 ・イオン半径と結晶の安定性について説明できる。 ・ダイヤモンドの単位格子と密度、充填率について理解している。
2 学 期	9	化学反応と熱・光	8	反応とエンタルピー変化 化学反応と熱の出入り、エンタルピーの変化、 いろいろな反応エンタルピー、 生成エンタルピーと反応エンタルピー、 化学反応が自然に進む方向 ヘスの法則 ヘスの法則、結合エンタルピー 光とエネルギー	・反応エンタルピーについて表すことができる。 ・反応エンタルピーの種類を説明できる。 ・生成エンタルピーの値から反応エンタルピーの求められる。 ・エントロピーとエンタルピーの違いを理解しようとしている。 ・ヘスの法則を説明できる。 ・ヘスの法則を利用して、結合エンタルピーから反応エンタルピーを求められる。 ・化学発光について例を挙げて説明できる。
	10	電池と電気分解	7	電池 電池の原理、実用電池 電気分解 電気分解のしくみ、電気分解における反応、電気分解の法則	・電池の基本的な仕組みを理解し、各電極で起こる反応を表すことができる。 ・主な実用電池の構造について、理解している。 ・電気分解の各電極での反応と酸化還元反応の関連について理解している。 ・各電極の変化を化学反応式で表すことができる。 ・電気分解の工業的な利用について、友達と意見交換しながら理解しようとしている。 ・ファラデーの法則より、電流量と物質量の関係について説明できる。
	11	化学反応の速さ	6	反応の速さ 早い反応と遅い反応、反応の速さの表し方 反応速度を変える条件 反応速度と濃度、反応速度と温度、反応速度と触媒、 反応速度を変えるほかの要因 反応のしくみ 粒子の衝突、活性化エネルギー	・反応物、生成物それぞれの反応の速さの表し方を理解している。 ・反応速度に関する実験を行い、反応速度と濃度の関係を科学的に探究しようとしている。 ・反応速度を変える様々な条件を理解している。 ・化学反応の経路について活性化エネルギーをもとに説明できる。 ・触媒と化学工業の発展について、探求しようとしている。
	11 12	化学平衡	8	可逆反応と化学平衡 可逆反応と不可逆反応、化学平衡、 平衡定数と化学平衡の法則、 平衡の移動 平衡移動の原理、濃度変化と平衡移動、圧力変化と平衡移動 温度変化と平衡移動、触媒と平衡移動	・可逆反応と平衡状態の関係を説明できる。 ・平衡定数 K を表すことができる。 ・平衡状態の物質の量を求めることができる。 ・条件を変化させたときのふるまいについて、平衡移動の原理をもとに説明できる。 ・化学工業（ハーバー・ボッシュ法）と化学平衡の関係を探究しようとしている。

3 学 期	1	水溶液中の化学平衡	8	電離平衡 電離平衡、水の電離平衡 塩の水への溶解 塩の水溶液の性質、緩衝液とpH、溶けにくい塩の溶解平衡	• 電離定数を導出できる。 • 水のイオン積から、pH を求められる。 • 正塩の水溶液の性質を、科学的に説明することができる。 • 緩衝液についてその特徴を理解している。 • 弱酸と強塩基の反応と緩衝作用を関連させて説明できる。 • 溶解度積を求められる。 • 溶解度積をもとに沈殿が生成されるか判断できる。
	2	周期表と元素	1	周期表と元素 元素の分類	• 周期表と元素の分類を関連付けられる。
	2 3	非金属元素の単体と化合物	9	水素とその化合物 貴ガス 酸素とその化合物 ハロゲンとその化合物 硫黄とその化合物 窒素、リンとその化合物 炭素、ケイ素とその化合物	• 各物質の性質および製法、捕集法を理解している。 • 各物質の性質に留意して、作成したり化学反応をさせるたりできる。

学年	2	コース等	文系	教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		改訂版 生物基礎（実教出版）							
補助教材等		生物基礎研究ノート、リードα生物基礎、生物基礎エブリイノート、スクエア最新生物図説							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ① 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 ③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 ・自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	・生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	・課題等の提出をきちんと提出している。 ・既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査の知識問題 ・小テスト ・単元テスト	・定期考査の考察問題 ・実験レポートの考察記述内容 ・単元テストの思考問題	・課題等の提出状況 ・実験レポートの発展的内容の記述や調べ学習 ・課題以外の自主的学習レポートの提出 ・考査や模試の訂正ノート作成とその内容

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	生物の多様性と共通性	5	- 生物のもつ共通性を理解する。 - 細胞共生進化説を理解する。 - 光学顕微鏡やマイクロメーターの正しい扱方を習得する。 - 細胞を観察し、大きさの計測を行う。	生物のもつ共通性を5つ挙げることができる。細胞共生進化説について説明することができる。光学顕微鏡やマイクロメーターを用いて、生物の細胞の観察と大きさの計測等ができるようになる。
	5	生物とエネルギー	6	- 生命活動に必要なエネルギー代謝について理解する。 - 代謝に必要な酵素の特性について実験を通して理解する。	生命活動に必要なエネルギー代謝について理解し、表現することができる。また、代謝に必要な酵素の特性について実験を通して、考察することができる。
	6	遺伝情報とDNA	5	- DNAの構造が遺伝情報を担い得る特徴をもつことを理解する。 - シャルガフの法則から塩基組成を推定し、体細胞分裂の観察結果から、細胞周期や各分裂期に要する時間を推定する。	DNAの構造が遺伝情報を担い得る特徴をもつことを理解し、表現することができる。シャルガフの法則から塩基組成を推定することができる。体細胞分裂の観察結果から、細胞周期や各分裂期に要する時間を推定することができる。
	7	遺伝情報とタンパク質の合成	2	- DNAの塩基組成がアミノ酸配列に置き換えられ過程を理解する。 - バフの事象から、全ての遺伝子が常に発現しているわけではなく、細胞ごとに発現する遺伝子が異なることを理解する。	DNAの塩基組成がアミノ酸配列にどのように置き換えられるかを理解し、表現することができる。バフの観察等を通して、全ての遺伝子が常に発現しているわけではなく、細胞ごとに発現する遺伝子が異なることを推定することができる。
2 学期	9	遺伝情報とタンパク質の合成 体内環境を維持するしくみ	7	- ゲノムと遺伝子およびその関係について理解する。 - iPS細胞やES細胞などがもつ再生医療分野への可能性と生命倫理上抱える課題について考える。 - 体内環境が一定の範囲に調節されていることを理解する。 - 体液がその中心となる役割を果たしていることを理解する。	ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。iPS細胞の再生医療分野への可能性と課題を考え、科学技術の進歩と倫理性との両立について、思考を深める。体内環境が一定の範囲に保たれていることを理解し、体液が中心的役割を果たすことを説明できる。
	10	体内環境を維持するしくみ	8	- 腎臓の構造と働きを理解する。 - 肝臓による物質の合成、分解、貯蔵のはたらきについて理解する。 - 自律神経系の構造と働きを理解し、日常生活での体の変化と結び付けてはたらきを考える。	腎臓の構造と働きを理解する。肝臓による物質の合成、分解、貯蔵のはたらきについて理解し、表現できるようになる。体を動かすときに生じる体内の変化を実測し、自律神経系の働きと結びつけて表現できる。
	11	体内環境を維持するしくみ	7	- 血糖値の変化のグラフから、自律神経系と内分泌腺に生じる働きについて考察する。 - 糖尿病患者の血糖値の推移グラフからⅠ型糖尿病とⅡ型糖尿病の違いを受容体の感受性と関連して考える。	血糖値の変化のグラフから、自律神経系と内分泌腺に生じる働きについて考察することができる。また、グラフからⅠ型糖尿病とⅡ型糖尿病の違いを受容体の感受性と関連して考えることができるようになる。
	12	免疫	5	- 生体防御について自然免疫と適応免疫とに分けて理解する。 - 臓器移植における拒絶反応や予防接種の意義、アレルギーのしくみについて理解する。	生体防御について自然免疫と適応免疫とに分けて説明できる。臓器移植における拒絶反応や予防接種の意義、アレルギーのしくみについて説明することができる。
3 学期	1	植生と遷移	5	- 火山噴火後などの裸地から、どのように植生の遷移が進むのかを理解する。 - 日本において植生の垂直分布や水平分布を理解するとともに、各植生において代表的な植物種を覚える。	火山噴火後などの裸地から、どのように植生の遷移が進むのかを説明することができる。日本の垂直分布や水平分布、また各植生において代表的な植物種を答えることができる。
	2	植生とバイオーム	5	- 気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成されるか理解する。 - 世界のバイオームについて代表的な植物種や動物を覚える。	気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成されるかを説明することができる。世界のバイオームについて代表的な植物種や動物を挙げることができる。
	3	生物の多様性と生態系 生態系のバランスと保全	4	- 生態系には多様な生物種が存在することを理解するとともに、生物の関係性でバランスが保たれていることを理解する。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを理解する。 - 人間活動が生態系に与えている現状を知ること、自然環境保全に寄与する行動を考察する。	生態系は多様な生物の関係性でバランスが保たれていることを説明できる。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを小規模攪乱と比較して説明できる。人間活動が生態系に与えている現状を知り、自然環境保全に寄与する行動を説明できる。

学年	2	コース等	理系	教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
使用教科書（発行所名）		改訂版 生物基礎（実教出版）							
補助教材等		生物基礎研究ノート、生物基礎エブリイノート、スクエア最新生物図説							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ① 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ③ 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 - 自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	- 課題等の提出をきちんと提出している。 - 既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 - 自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	- 課題等の提出をきちんと提出している。 - 既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	生物の多様性と共通性 生物とエネルギー	6	・生物の共通性・生物の分類方法・マイクロメータの原理と使用方法を理解する。 ・エネルギー代謝と生命活動の関係特に、同化と異化・酵素の特性を理解する。	生物の共通性を4つ挙げられる。マイクロメーターを用いて、細胞の大きさを計測等できる。 生命活動に必要な代謝について説明できる。また、酵素の特性について無機触媒と比較して説明できる。
	5	遺伝情報とDNA 遺伝情報とタンパク質の合成	8	・DNAの構造と遺伝情報の関係・塩基組成の規則性、細胞分裂の過程と要する時間の関係を理解する。 ・形質発現の過程を理解する。細胞ごとに発現する遺伝子が異なる。 ・ゲノムと遺伝子とその関係を理解し、iPS細胞やES細胞などがもつ再生医療分野への可能性と課題について考える。	DNAの構造および遺伝情報として機能することを説明できる。体細胞分裂における各分裂時期やその細胞DNAの遺伝情報からの形質発現が説明できる。細胞ごとに発現する遺伝子が異なることを説明できる。ゲノムと遺伝子およびその関係について説明できる。
	6	体内環境を維持するしくみ 免疫	8	・体内環境、特に体液が一定の範囲に調節されていることを理解する。具体的内容として、腎臓、肝臓のはたらき、ホルモン、自律神経系による調節と血糖値調節を理解する。 ・臓器移植における拒絶反応や予防接種の意義、アレルギーのしくみについて理解する。	体内環境の恒常性において、体液の役割を説明できる。腎臓と肝臓の構造、その働きを図示して表現でき自律神経系の働きと体験を結びつけられる。血糖値調節を説明できると共に、Ⅰ型糖尿病とⅡ型糖尿病の違拒絶反応や予防接種の意義、アレルギーのしくみについて説明できる。
	7	植生と遷移	5	・日本において植生の垂直分布や水平分布を理解するとともに、各植生において代表的な植物種を覚える。 ・気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成される理解する。 ・世界のバイオームについて代表的な植物種や動物覚える。	気温と降水量の違いによって、どのようなバイオームが形成されるか説明することができる。世界のバイオームについて代表的な植物種や動物を挙げることができる。
2 学期	9	植生とバイオーム 生物の多様性と生態系 生態系のバランスと保全	5	・生態系には多様な生物種が存在することを理解するとともに、生物の関係性でバランスが保たれていることを理解する。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを理解する。 ・人間活動が生態系に与えている現状を知ること、自然環境保全に寄与する行動を考察する。	生態系は生物の関係性でバランスが保たれていることを説明できる。生態系は大規模な攪乱でバランスが崩れることを理解し、小規模攪乱と比較して説明できる。人間活動が生態系に与えている現状を知り、自然環境保全に寄与する行動を説明できる。
	10				
	11				
	12				
3 学期	1				
	2				
	3				

学年	2	コース等	理系	教科	理科	科目	生物	単位数	4
使用教科書（発行所名）		高等学校 生物 （啓林館）							
補助教材等		生物研究ノート、リードα生物基礎＋生物、スクエア最新生物図説							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ①生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
 ②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
 ③生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 - 自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	- 課題等の提出をきちんと提出している。 - 既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理、法則などを理解している。 - 自然の事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、結果の記録や整理、資料の活用の仕方などを身に付けている。	生徒が自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を解釈し表現するなど、科学的に探究する過程において思考・判断・表現しているかを、発言や記述の内容、ペーパーテストなどから状況を把握する。	- 課題等の提出をきちんと提出している。 - 既習内容からさらに課題を見出し、自発的調べ学習や追加実験を行い、レポート等にまとめ提出できた。

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4				
	5				
	6				
	7				
2 学期	9				
	10	生命の進化 有性生殖と遺伝的多 様性	19	生物の共通性を物質や現象レベルで確認し、および化学進化を経て生命誕生に至ることを理解する。	- 現在地球上に存在する多様な生物は共通の祖先に由来するが、その根拠を具体的に説明できる。 - 生命誕生に至る過程について化学進化を含めて説明できる。 - 生物の変遷と地球環境の変化を関連付けて説明できる。
	11	有性生殖と遺伝的多 様性	18	- 有性生殖と無性生殖の違いを理解し、その意義を考察する。減数分裂の過程および遺伝的多様性を生じるしくみを理解する。 - 独立、連鎖といった遺伝子の関係さらに連鎖と組み換えの現象が遺伝子記号を用いて説明できることを学ぶ。	- 有性生殖と無性生殖の違いが説明できる。 - 生物にとっての有性生殖の意味と、進化との関係を説明できる。減数分裂の過程を理解し、その結果、遺伝的多様性を生じる理由について説明できる。 - 独立、連鎖といった遺伝子の関係や、連鎖と組み換えについて、現象を遺伝子記号を用いて表現できる。
	12	進化のしくみ	13	- 進化のしくみについて、突然変異との関係に基づいて説明できることを理解する。 - 進化の要因として自然選択が種分化に関係していることを理解する。 - ハーディワインベルグの法則とそれが成立する条件を理解し、具体的遺伝現象をこの法則を用いて説明できることを学ぶ。	- 進化のしくみを突然変異との関係に基づいて説明できる。 - 進化の要因に関して、自然選択が種分化にどのように関係しているのか説明できる。 - ハーディワインベルグの法則とそれが成立する条件を理解し、遺伝現象をこの法則を用いて説明できる。
3 学期	1	生物の系統	11	- 生物の分類の方法を理解し、系統分類の考え方で生物の系統関係を推定する。 3ドメイン説を理解し、現生生物を分類する。DNAの塩基配列に基づく系統樹を理解するとともにヒトの起源と進化の過程について理解する。	- 生物の分類の方法を学び、系統分類を用いて生物の系統関係を推定できる。 3ドメイン説を理解し、現生生物を分類することができる。 - DNAの塩基配列に基づく系統樹を理解する。 - ヒトの起源と進化の過程について説明できる。
	2	生命と物質	12	- 細胞小器官など、細胞の内部構造とその構成物質を学ぶ。 - タンパク質に関して、物質輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達、免疫や筋収縮などの機能がタンパク質の立体構造に基づくことを理解する。その上で、生命活動で果たす働きについて総合的に理解する。	- 細胞小器官など、細胞の内部構造とその構成物質を挙げることができる。 - 物質輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達、免疫や筋収縮などにおけるタンパク質の立体構造の変化と生命活動で果たす働きについて説明することができる。
	3	代謝 呼吸 光合成	14	- 呼吸におけるエネルギー変換の仕組みについて理解する。 - 呼吸の反応式を元に、呼吸商や反応生成物量について、定量的に具体的に扱うことで、数的処理を学ぶ。	- 呼吸におけるエネルギー変換の仕組みについて説明できるようになる。 - 呼吸の反応式をもとに、呼吸商や反応生成物量について、定量的に扱うことができる。

学年	2	コース等	全クラス	教科	保健体育	科目	体育	単位数	2
使用教科書（発行所名）		現代高等保健体育（大修館書店）							
補助教材等		アクティブスポーツ							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

・運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。
 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
 ・運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の実践に関する事項や生涯にわたって運動を実践することについて理解しているとともに、運動の基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について理解しているとともに、基本的な技能を身に付けているかを評価する。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともにそれらを他者に伝えているかを評価する。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に主体的に取り組んでいる。集団活動において作戦会議や課題解決のための話し合いに参加している。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に主体的に取り組んでいるかを評価する。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・ワークシート ・実技テスト ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・学習カード ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	体づくり運動	8	・のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気持ちいなり関わり合ったりする。 ・リズムに乗って心が弾むような運動を行うことを通して、気持ちいなり関わり合ったりする。 ・調和のとれた体力の向上を図ったり、選択した運動やスポーツの場面で必要とされる体の動きを高めたりするために、効率のよい組合せやバランスのよい組合せで運動の計画を立てて取り組む。	【知識・技能】 ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする - こと、合意形成に貢献しようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
	5	球技Ⅰ	14	【ア ゴール型】 ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バレーボール ・バドミントン 【ウ ベースボール型】 ・ソフトボール	【知識・技能】 ○知識 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ○技能 ・ゴール型では、状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすることができる。 ・ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる。 ・ベースボール型では、状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする - こと、合意形成に貢献しようとする - こと、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする - こと、互いに助け合い高め合おうとする - ことなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。
	6				
	7	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	○体育理論 【知識】 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解している。 【思考・判断・表現】 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に主体的に取り組もうとしている。
2 学期	9	球技Ⅱ	6	【ア ゴール型】 ・バスケットボール ・サッカー 【イ ネット型】 ・バレーボール ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	10	陸上	11	【長距離走】	○陸上 【知識】 ・技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などについて理解している。 ・長距離走では、ペースの変化に対応して走ることができる。 【思考判断表現】 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする - こと、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしたり、健康・安全を確保したりしている。
		体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	体育理論における評価基準は上記内容と同じ
	11	球技Ⅲ	8	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	12				
3 学期	1	球技Ⅳ	10	【ア ゴール型】 ・サッカー ・バスケットボール 【イ ネット型】 ・バドミントン ・卓球	球技における評価基準は上記内容と同じ
	2				
	3	体育理論	2	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	体育理論における評価基準は上記内容と同じ

学年	2	コース等	全クラス	教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
使用教科書（発行所名）		現代高等保健体育（大修館書店）							
補助教材等		図説 現代高等保健体育							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- ・健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- ・生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識・技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養っている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・ワークシート	・ワークシート ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）	・ワークシート ・授業中の学習への取り組みの様子（観察）

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4		2	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康	【知識・技能】 ・生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることを理解している。 ・労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。
	5		2	3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康	
	6		3	5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康	
	7		2	8 働くことと健康 9 労働災害と健康	
2 学期	9		3	10 健康的な職業生活 仕事を健康の視点から考えてみよう	【知識・技能】 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとしよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 ・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。
		健康を支える環境づくり		1 大気汚染と健康	
	10		3	2 水質汚濁、土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	
	11		3	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 7 保健サービスとその活用	
3 学期	12		2	8 医療サービスとその活用	【知識・技能】 ・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとしよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解している。 ・生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性や安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であることを理解している。 ・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていることを理解している。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。
	1		2	9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策	
	2		2	11 健康に関する環境づくりと社会参加	
	3		1	総まとめ	

学年	2	コース等		教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	3
使用教科書（発行所名）	ELEMENT English CommunicationⅡ（啓林館）								
補助教材等	コーパス4500（東京書籍）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと【やり取り】、話すこと【発表】、書くこと）において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞き取ったり、読み取ったり、書いたり、話したりすることができる。	- 必要な情報を聞き取り、話し手の意図や概要、要点を捉えている。 - 必要な情報を読み取り、書き手の意図や概要、要点を捉えている。 - 情報や考え、気持ちなどを、話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしている。 - 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話して伝えている。 - 情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して書いて伝えている。	- 話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で話されることを聞こうとしている。 - 書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語で書かれたことを読もうとしている。 - 聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて伝え合おうとしている。 - 聞き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて話そうとしている。 - 読み手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて書こうとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 宿題・課題プリント - 小テスト	- 定期考査 - 宿題・課題プリント	- 宿題・課題プリント - 小テスト - 授業への出席状況

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	Lesson1 Cultures around the World	7	<異文化理解> ・あなたの国の位置は？ ・文化の世界地図 ・形式目的語のit ・対応する能動態を持たない受動文	・The Culture Mapを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・文化の違いについての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。 ・形式目的語のit、対応する能動態を持たない受動態を用いた文の構造を理解することができる。
	5	Lesson1 Cultures around the World Lesson2 Stay Power of Words	8	<スピーチ・生き方> ・スティーブ・ジョブズの名スピーチ ・複合関係代名詞 ・be動詞+to不定詞	・Stay Hungry, Stay Foolishを読んで概要や詳細を理解し、行間を読むことができる。 ・生き方についてのスピーチを読み、その内容についてリテリングができる。 ・複合関係代名詞、be動詞+to不定詞を用いた文の構造を理解することができる。
	6	Lesson2 Stay Power of Words	8	<スピーチ・生き方> ・スティーブ・ジョブズの名スピーチ ・複合関係代名詞 ・be動詞+to不定詞	・Stay Hungry, Stay Foolishを読んで概要や詳細を理解し、行間を読むことができる。 ・複合関係代名詞、be動詞+to不定詞を用いた文の構造を理解することができる。 ・生き方についてのスピーチを読み、その内容についてリテリングができる。
	7	Lesson3 Preconception Further Reading1 The True Story of the Bear behind Winnie-the-Pooh	12	<ジェンダー・ファッション> ・ピンクは女の子の色？ ・先入観はどこから来たか ・付帯状況のwith ・the+比較級～, the+比較級… <動物・文学> ・名作『くまのプーさん』誕生秘話	・How Did Pink Become a “Girl” s Color” in America?を読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・付帯状況のwith, the+比較級～, the+比較級…を用いた文の構造を理解することができる。 ・ジェンダーについての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。 ・子グマと軍人のふれあいを描いた物語を読み、概要や詳細を理解する。
2 学期	9	Lesson4 The Century of War	7	<平和・人権> ・2,500人のユダヤ人を救った命のリスト ・さまざまな分詞構文 ・完了形の受動態	・Life in a Jarを読んで概要や詳細を理解し、行間を読むことができる。 ・さまざまな分詞構文、完了形の分詞構文を用いた文の構造を理解することができる。 ・戦争中の出来事についての物語文を読み、その内容についてリテリングができる。
	10	Lesson5 How Our Minds Work	11	<心理・経済> ・予想通りに不合理？ ・賢い物の心理トリック ・itを用いた強調構文 ・助動詞+have+過去分詞	・Predictably Irrationalを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・itを用いた強調構文、助動詞+have+過去分詞を用いた文の構造を理解することができる。 ・人間の心理と行動についての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。
	11	Lesson6 IT and Life	7	<現代社会・家族愛> ・ぼくの名前は… ・25年目の「ただいま」 ・倒置 ・関係副詞の非限定用法	・A Long Way Homeを読んで概要や詳細を理解し、行間を読むことができる。 ・倒置、関係副詞の非限定用法を用いた文の構造を理解することができる。 ・ITの発展が1人の青年の人生にもたらした影響についての物語文を読み、その内容についてリテリングができる。
	12	Further Reading2 Miss Moore Thought Otherwise Lesson7 Advances in Medical Technology	7	<教育・女性> ・子ども図書館を開設したムーア氏の奮闘 <医学・科学技術> ・世紀の大発見 ・iPS細胞とは ・that節をとる名詞 ・未来進行形	・子ども図書館の発展に尽力した女性についての物語文を読み、概要や詳細を理解することができる。 ・Putting iPS Cells into Practiceを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・that節をとる名詞、未来進行形を用いた文の構造を理解することができる。 ・医療技術の進歩と発展についての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。
3 学期	1	Lesson7 Advances in Medical Technology	8	<医学・科学技術> ・世紀の大発見 ・iPS細胞とは ・that節をとる名詞 ・未来進行形	・Putting iPS Cells into Practiceを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・that節をとる名詞、未来進行形を用いた文の構造を理解することができる。 ・医療技術の進歩と発展についての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。
	2	Lesson8 A Tiny Step, a Big Impact	4	<歴史・科学技術> ・ガラスから見る歴史 ・発明の連鎖がつくる世界 ・whatを用いた強調 ・複合関係副詞	・How We Got to Now with Glassを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理することができる。 ・whatを用いた強調、複合関係副詞を用いた文の構造を理解することができる。 ・技術革新のつながりについての説明文を読み、その内容についてリテリングができる。
	3	Further Reading3 Moufflon - The Dog of Florence	8	<動物・文学> ・フローレンスの忠犬 ・少年と犬の友情物語	・少年と犬の絆と家族の愛情についての物語文を読み、概要や詳細を理解することができる。

学年	2	コース等		教科	英語	科目	論理表現II	単位数	2
使用教科書（発行所名）		論理表現II Vision Quest Ace（啓林館）							
補助教材等		シーニアス総合英語（大修館書店）論理表現II Vision Quest Ace WORKBOOK（啓林館）							

1. 教科・科目の目標（学習目標）

- ・英語の特徴や決まりに関する文法事項を活用し、論理的に意見を書いたり、話したりして伝えることができる。
- ・様々なテーマについて、目的や場面に応じた論理の構成や展開を意識して表現できるようになる。
- ・聞いたり読んだりした内容をもとに要約を行ったり、ディスカッションを行う技能を身につけることができる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 英語の特徴や決まりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 【技能】 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合することができる技能を身に付けている。	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	・定期考査 ・小テスト・確認テスト ・宿題・課題プリント	・定期考査 ・小テスト・確認テスト ・宿題・課題プリント	・授業中の学習への取り組みの様子（観察） ・課題への取り組み状況・提出状況 ・振り返りシート・学習記録 ・ノートへの記述内容の充実度

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学期	4	Lesson1 What's your future goal?	6	・高校1年次までの文法知識の復習 ・適切な主語の用い方、名詞句、形式主語を理解する。 ・将来の夢について3文程度でエッセイを書く ・文と文のつながりを意識して「つなが言葉」を使う。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	5	Lesson2 What school events do you have? Build up 1	6	・自動詞、他動詞、群動詞を理解する。 ・5文型の復習。 ・学校行事について、紹介文を書く。 ・冠詞の使い方を理解する。 ・可算名詞、不可算名詞の違いを理解する。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	6	Lesson3 Who is the best athlete?	8	・現在形、過去形、未来形の形と意味を理解する。 ・完了形・進行形の形と意味を理解する。 ・お気に入りのアスリートについて、紹介文を書く。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	7	Activity1 Interview	5	・テレビインタビューのロールプレイを行う。 ・質問者・回答者となって二人で即興のインタビューを行う。	・〈知識技能〉 既習の文法事項を使って、自分の考えを話すことができる。
2 学期	9	Lesson4 Is social media safe?	8	・助動詞の使い方と意味を理解する。 ・助動詞の時制の形と意味を理解する。 ・ソーシャルメディアの利点欠点について自分の立場を明確にしながら、意見文を書く。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	10	Lesson5 How does overusing energy affect us?	8	・形容詞、分詞、前置詞句の名詞修飾の形を理解する。 ・不定詞（形容詞用法）の名詞修飾の形を理解する。 ・電力を過剰に使用することによる問題について理由を用いて意見文を書く。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	11	Lesson6 what are some cultural differences Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English	8	・関係代名詞、関係副詞の使い方を理解する。 ・1つの国とその文化について、客観的な証拠をもとに紹介文を書く。 ・不定詞（副詞的用法）、副詞句、副詞節の形を理解する。 ・分詞構文の形と使い方を理解する。 ・読んだ記事を要約する。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文と要約文を書くことができる。
	12	Lesson 8 Is Japan open enough? Lesson 9 What if you were rich	6	・直接語法と間接語法の違いについて理解する。 ・受け身で使う定型表現の形を理解する。 ・聞いた記事を要約する。 ・Ifを使った直説法と仮定法の違いを理解する。 ・仮定法を使った定型表現を理解する。 ・「宝くじが当たったら」についてスピーチをする。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについてのスピーチ原稿や要約文を書くことができる。

3 学 期	1	Lesson 10 How might AI affect our lives?	5	・可算名詞、不加算名詞について理解する。 ・数量を表す表現について理解する。 ・AIが及ぼす影響についてプレゼンテーションを行う。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについてのスピーチ原稿や要約文を書くことができる。
	2	Lesson 11 What is a healthy life?	6	・比較を表す表現を理解する。 ・最上級を表す表現を理解する。 ・「7時間以上寝るべきか」について意見文を書くことができる。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについての英作文を書くことができる。
	3	Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	6	・否定を表す表現を理解する。 ・部分否定、準否定の形と意味を理解する。 ・チョコレートを売るために必要な視点は何かというテーマでディスカッションを行う。	・〈知識技能〉 扱われている文法を用いた例文を書くことができる。 ・〈思考力判断力表現力〉 扱われている文法を用いて、与えられたテーマについてのディスカッションを行うことができる。

学年	2	コース等		教科	情報	科目	情報Ⅰ	単位数	2
使用教科書（発行所名）	高校 情報Ⅰ 新訂版（実教出版）								
補助教材等	高校 情報Ⅰ 新訂版 学習ノート（実教出版）								

1. 教科・科目の目標（学習目標）

（１） 情報活用の実践力…課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力
（２） 情報の科学的な理解…情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解
（３） 情報社会に参画する態度…社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

3. 評価の割合・方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
主な評価方法	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 定期考査 - 小テスト・確認テスト - 宿題・課題プリント	- 授業中の学習への取り組みの様子（観察） - 課題への取り組み状況・提出状況 - 振り返りシート・学習記録

4. 年間授業計画

学期	月	単元等	予定 時間	学習内容	評価規準
1 学 期	4	第1章 情報社会と問題解決	6	・情報とメディア ・情報技術による社会の変化	・情報の特徴（残存性、複製性、伝播性）について、意味を理解している。 ・表現メディア、伝達メディア、記録メディアの特性を理解している。 ・PPDACなどの問題解決の手法について理解している。
	5		11	・問題の発見と解決 ・知的財産権 ・個人情報 ・情報に関する法規 ・情報セキュリティ	・問題や問題解決の意味、問題解決の基本的な手順について理解している ・情報セキュリティの意味やその対策について理解している。 ・不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規について理解している。 ・情報漏洩とその対策について理解している ・プライバシー権、肖像権、パブリシティ権について理解している。 ・著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。 ・著作者と伝達者の権利に関する法規やルールについて理解している。
	6	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	11	・コミュニケーションとメディア ・情報デザイン ・Webサイトの設計	・伝播メディアや成果メディアについて理解している。 ・メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性について理解している。 ・誤解を招く表現の他の例をあげて説明することができる。
	7		8	・アナログとデジタル ・情報のデジタル化 ・データの圧縮	・コンピュータの内部表現としての2進数をほぼ理解している。 ・表現できる情報の数とその単位についてほぼ理解している。 ・補数による負の数の表現についてほぼ理解している。 ・浮動小数点数の表し方についてほぼ理解している。
2 学 期	9	第3章 コンピュータの仕組み	12	・ハードウェアとソフトウェア ・2進数の計算	・表計算ソフトウェアを利用してデータを表にまとめることがほぼできる。 ・表計算ソフトウェア上でグラフを使ったデータ処理をすることがほぼできる。 ・度数分布表やヒストグラム、箱ひげ図の読み方を理解することがほぼできる。
	10		12	・論理回路と論理演算 ・コンピュータの構成と動作 ・コンピュータの性能	・AND、OR、NOTの基本論理回路をほぼ理解している。 ・CPUと主記憶装置間の情報のやり取りや、CPUの処理速度がコンピュータの性能に大きく影響していることをほぼ理解している。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いについてほぼ理解している。
	11	第4章 プログラミングとシミュレーション	13	・アルゴリズムとプログラミング ・プログラミングの基本 ・関数 ・探索のアルゴリズム	・アルゴリズムの基本とプログラムの意味を理解している。 ・配列の役割や要素、添字について理解している。 ・複数の添字を正しく指定する方法を考えることができるか。 ・線形探索のアルゴリズムを理解しているか。 ・二分探索のアルゴリズムを理解しているか。 ・交換法による整列のアルゴリズムを理解しているか。
	12		7	・整列のアルゴリズム ・モデル化とシミュレーション ・確定的モデルのシミュレーション ・確率的モデルのシミュレーション	・選択法による整列のアルゴリズムを理解しているか。 ・確定的モデルのシミュレーションを行い、その結果から考察することができるか。 ・簡単な確率的モデルのモデル化やシミュレーションの手順を理解しているか。
3 学 期	1	第5章 ネットワークと情報システム	5	・ネットワークとプロトコル ・インターネットの仕組み ・Webページの閲覧と電子メールの送受信 ・ネットワークとセキュリティ	・LANとWANについて、またネットワークを構成する機器やその役割についてほぼ理解している。 ・DNSについてその仕組みと役割をほぼ理解している。 ・ルータの役割やルーティング機能についてほぼ理解している。
	2		2	・安全のための情報技術 ・情報システム ・情報システムを支えるサービスや技術 ・データベース	・IPv4やIPv6の表記について理解し、2進、10進、16進数で表現できるか。 ・ドメイン名の管理の仕組みを理解しているか。 ・ルータの役割について理解し、説明することができるか。 ・リレーショナルデータベースの特徴とその仕組みについてほぼ理解している。 ・結合、選択、射影といった基本的な操作についてほぼ理解している。
	3	第6章 データの活用	6	・データの種類と取り扱い ・データの収集と整理 ・データの分析	・最小二乗法について、その原理を理解しているか。 ・最小二乗法の学習に興味・関心を示しているか。 ・区間推定について説明することができるか。 ・標本平均と母分散、サンプル数から母平均の95%信頼区間を計算できるか。 ・クロス集計について、その方法を説明できるか。